

令和 2 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 ふるさと

社会福祉法人ふるさと 令和2年度事業報告「法人本部」

1. 総 括

2020年初頭以降、新型コロナウイルス感染症により高齢者福祉施設として最大限の感染対策を講じながら、ご利用者の暮らしと生命を守るため事業継続を強いられるという、かつてない事業環境にあったこの一年を振り返り、以下に事業を総括する。

【新型コロナウイルス感染症】

2019年12月に中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症は急激な勢いで感染者数が増加し、爆発的勢いで全世界へと広がった。国内では早期から指定感染症に指定された後、3度にわたる緊急事態宣言の発令等収束に向けて様々な感染拡大防止対策がとられているが、その効果はいまだ限定的である。

施設・事業所運営においても一大行事である敬老会の縮小や地域との交流の停止、職員の研修活動の見直しなど、対外的な接触を最低限にする日常が一年以上続いている。この間、厚生労働省から発出される対処方針や感染対策等の情報に沿って、事業継続計画（感染症BCP）の策定、面会・入館制限、業務規模の変更・縮小や職員の日常生活にまで及ぶ法人独自の徹底した感染症対策を実施しながら対応を続けている。

一方、介護事業所は医療機関と比較して感染症に対する設備や職員の意識・技術が課題といわれてきたが、この機会に国からの支援でオゾン殺菌装置やオンライン会議・研修システムの整備が進んだことと、職員の感染症スキルにおいても平時以上に多種多様な研修、訓練を積み重ねることで当該領域に対する対応力を格段に高めることができた。

この一年、職員をはじめとする関係者の協力により法人内の感染者発生こそ抑えられているものの、こうした厳戒態勢はしばらく続くものと思われる。社会において必要不可欠な社会事業の一つとして全法人をあげて引き続きご利用者の暮らしと生命を守り、地域社会の福祉を支える使命を全うしていきたい。

【社会福祉法人を取り巻く状況】

2020年6月に成立した「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律（2021年4月1日施行）」では、さらに複雑化、複合化する福祉ニーズに対応するため社会福祉法人が地域の生活支援の担い手として期待される一方、小規模法人を中心に経営基盤や事業の安定性に脆弱さがみられる法人が多いこと等から、統合・再編を視野に入れた法人相互の事業連携を進める社会福祉連携推進法人制度が創設された。

また、同法において介護人材確保及び業務効率化への取組み強化が改めて規定されたことからわかるように、今後生き残っていくためには利用者のみならず職員や求職者

からも選ばれる法人となるための組織構築、事業運営、労働環境の整備がますます重要となってくる。

【組織マネジメントの再構築に向けて】

「組織マネジメントの再構築」をテーマに一年目は『無意識マネジメントメソッド』の原理を学びながら、組織の環境統制の鍵となる『姿勢のルール』の策定を始めた後、二年目となった本年度では、組織の共通目標である『行動のルール（成長のルール）』づくりへと展開した。

法人理念である「共助共援」とは、本来仲良くという意味ではなく、「共通の目的・目標に向かって、よりよい結果を導くために協働する組織」と定義づけられるが、姿勢のルールという共通ルールの下、各職域・事業所が目指す目標を明らかにし、その達成のための道筋を行動のルールとして設定することで、組織としての業務標準の見える化も一歩進んだといえる。

また、単に目標掲げるだけでなく、その目標達成のためチームメンバーが互いの考えや意見を率直に話し合い、目標に向かって創意工夫するためには、組織における「心理的安全性」の確保が重要であり、そのためのコミュニケーションとしての対話法も同時に学んでいる。

最終年となる次年度においては、法人の行動基準を定着させながら人事考課制度や内部管理体制と結び付け、職員が“人財”として成長できる職場環境を構築していきたい。

【業務効率化の取組み】

人材確保と介護給付費の抑制政策に頭を悩ませる介護業界にとって、いかに業務を効率化させ、生産性を向上させるかは死活問題である。当法人においても、これまで間接経費である施設維持コストの低減のため省エネ対策等を講じてきたが、今後さらに業務の効率化やICT化を進める必要がある。

本年度の取り組みとして（１）組織内の円滑な情報共有を進めるためのグループウェアの導入（社会福祉法人用アプリ Garoon：ガルーン）、（２）内部管理体制の基盤となる決裁プロセスの透明化のための決裁アプリケーションの導入（Kintone：キントーン）、を行い、次年度にかけて本格運用するための準備が整った。

（１）Garoonには、全法人職域に向け、全体でも一部にでも柔軟に周知できる掲示板機能、各事業所・職域のスケジュールを俯瞰しながら会議・研修等の日程調整等が容易に行えるスケジュール機能、委員会活動やプロジェクト活動について事業所を横断したグループメンバーがWeb上でディスカッションしたり、ToDo管理やデータ共有等できる有用な機能があり、法人内のコミュニケーション向上に大いに資するものとする。

（２）Kintoneはこれまで紙ベースで処理していた稟議過程の課題であった意思決定プロセスの透明化（責任の所在の明確化）と購買プロセスの適正化（発注から納品・支

払いまでの管理体制)を図るとともに、ペーパーレスによる省力化、効率化を図ることができる。

また、経理事務担当者退職後の業務体制構築(アウトソーシング)を通して、図らずもブラックボックス化していた経理事務の様々な非効率性が露見し、大幅な業務の見直しと改善ができたことは怪我の功名となった。人に仕事がつくという“属人的”な業務のあり様を今後も適正化していきたい。

次年度に向けても引き続き、Kintoneの連携機能を活用して、起案から銀行振込まで一気通貫できる仕組みを構築中であり、今後もさらなる業務効率化を通して生産性の向上を目指したい。

【介護福祉人材の確保・定着】

昨年度に引き続き人材確保は厳しい情勢が続いている中で、体調不良や転職による退職により職場を離れる人員は19名となった。採用には、派遣・紹介会社からの情報も取り入れながら辛うじて16名を確保したが、紹介料の支出も大きくなった(5名分/約158万円 ※昨年度7名/260万円)。

また、定着率向上の一つとして取り組んでいる職員のメンタル・フォローは、昨年度に引き続き日本産業カウンセラー協会に委託し、対象者を広げてスキルアップ研修から個人カウンセリングを行うなど充実を図っており、カウンセラーからは前年度から追跡フォローしている職員の状態が改善しているとの所見もあった。

介護職員等への処遇改善については、昨年度に創設された特定処遇改善加算も併せ引き続き実施した。

また、こうした人材確保・定着を担当する人事部について次年度より専任のセクションとして稼働できるよう組織機構再編の準備を進めた。

【科学的介護と自立支援介護へのアプローチ】

2021年1月、厚生労働大臣への答申により、令和3年度介護報酬改定で大きな柱と位置づけされた「科学的介護」の中身が明らかとなり、そこには介護保険の2大目的である「尊厳の保持」と「自立支援」に大きく舵を切るという将来に向けての重要なメッセージが盛り込まれた。その推進エンジンこそ「科学的介護情報システム“LIFE”」である。

これまで現場で積み上げられてきた経験と勘ではなく、全国の老人福祉施設から集まる膨大な利用者情報と介護経過情報を分析し、それを各施設に還元しながらさらに科学的根拠となるエビデンスを蓄積したものをPDCAに沿って循環させることで介護の質を総体的に底上げしようとする試みである。さらには、自施設の全国平均と比較した位置もわかることから、将来的には利用関係者にとって施設選びのランキング・ナビになることも予想される。介護事業者にとっては、LIFE対応を含む科学的介護に取り組むかそうでないかで二極化が進む大きな岐路に立たされたことになる。というのも小規模な

事業所では LIFE に対応するための介護記録システムの導入に係る高額な経費や手間をかけることが難しく、かつ科学的介護の前提条件となる仮説の構築が困難だからである。その点、以前より LIFE に対応可能な記録システムを導入し、自立支援介護の理念や実践について学びを重ねてきた当法人においては、まさに本番の時を迎えたといえる。次年度はさらにステップアップし、科学的介護の報酬加算に対応すべく、先進施設の実践者より、利用者情報の読み取り方と PDCA に沿った介護実践の指導を受ける計画で、本年度ではそのための導入研修を受講するなど準備態勢を整えた。

また、本年度からは、重点的口腔ケアによる嚥下性肺炎ゼロプロジェクトがスタートし、老年歯学を専門とする歯科医師から 2 月に一度の指導を受けながらその定着を図っており、その効果は着実に見え始めている。

介護保険制度と表裏一体となった医療制度改革の影響により増加傾向にある入院率を抑制するためにも、ケアの質と報酬の両面にとって鍵となる自立支援介護へのアプローチが必至であり、これらの取り組みが職員の成長と組織風土の改革につながり、本来最も恩恵に浴すべきご利用者へと還元されることを目指し取り組んでいきたい。

○ 中期ビジョン（2019 年 1 月策定）の進捗状況

I. 組織体系の整備

- (1) 業務フローの整備
- (2) 組織機能レベルの事業所間格差の解消

- ▶ 組織マネジメントの再構築プロジェクト進行中（2021 年度まで）
 - ・組織マネジメント理論（組織環境統制と無意識マネジメント）の学び
 - ・姿勢のルール、リアル組織図に基づいた役割定義の策定
 - ・行動のルールの策定と標的行動による人材育成

II. 人材の確保・育成・定着

- (1) 教育体系の整備
- (2) 職員のメンタルフォロー充実
- (3) 介護教室の活用

- ▶ 組織マネジメント再構築コンサルティング中間管理職層への展開
- ▶ 日本産業カウンセラー協会による職員メンタルフォロー研修の実施
- ▶ コロナ禍における地域への情報提供と福祉教育あり方検討

III. 業務効率化の推進

- (1) 介護ロボットの導入検討
- (2) ICT による事務効率の改善

- Wi-Fi 環境（高速光通信網）の完備とオンライン面会・会議・研修等の環境整備
- 見守り支援ロボットの活用検討
- ICT による事務効率化（決裁、情報共有等）の導入

IV. 地域における福祉拠点

- (1) 災害対応力を高めた地域拠点
- (2) 生活困窮者などの福祉ニーズへの対応強化
- (3) 福祉教育による人材育成

- 西海市と福祉団体との福祉避難所協定への主体的参画
- グループホーム自家発電設備整備、サポートセンター自家発電容量増強
- 市内社会資源と連携したレスキュー事業の実施
- コロナ禍における地域への情報提供と福祉教育あり方検討（再掲）

V. 新たな医療・福祉ニーズへの対応

- (1) 医療連携の強化
- (2) 総合事業の検討
- (3) 配食サービスの検討

- 「自立支援介護・科学的介護」の導入研修実施
- 歯科医師の指導による口腔ケアプロジェクトの始動
- 殺菌装置、感染対策備品の整備等感染対応力の強化

VI. 現場の問題解決の推進

- (1) 業務改善活動の継続と定着

- 各職域による QC サークル活動の継続

○ 施設・事業所の運営状況（概要）

(1) 特別養護老人ホームふるさと

延べ満床数 25,550 人に対し、入所者数 25,380 人（契約率 99.3%）

延べ入院者数及び外泊者数 950 人（1 日平均 2.6 人）で前年（1,299 人）と比べると入院者は大幅に改善した。（稼働率前年対比 101.5%）

— 入退所状況：入所／19 人、退所／19 人（うち施設内看取り 8 人）

平均介護度 4.0（前年 4.1）

(2) 短期入所生活介護（ショートステイふるさと）

延べ利用枠 3,650 人に対し、利用者数は 3,127 人となり、前年に比して稼働率は

- 大きく上昇した（稼働率 85.7%・前年比 108.1%）。
- ー 平均介護度 2.4（前年 2.7）
- (3) 居宅介護支援センターふるさと
居宅介護支援延べ利用者数 441 人（前年比 112.5%）、予防介護支援延べ利用者数 84 人（前年比 190.9%）であった。昨年度介護支援専門員を 1 名増員したが、新規獲得も徐々に増えている。また、地域公益的取組み「ふるさとレスキュー事業」や地域における介護予防の啓発活動に努めた。
- (4) グループホームふるさと
延べ満床数 6,570 人に対し、利用者数 6,555 人（契約率 99.77%）
延べ入院者数及び外泊者数 132 人で前年（7 人）と比べると入院者が大幅に増加した。これは、コロナ禍において屋外での生活が大半となり、活動量が落ち食事・水分量が低下したことによる機能低下や、ストレス増による行動異常による転倒が要因と考えられる。
- ー 入退所状況：入所／2 人、退所／2 人
平均介護度 1.72（前年 1.78）
- (5) 第 2 グループホームふるさと
延べ満床数 6,570 人に対し、利用者数 6,514 人（契約率 99.14%）
延べ入院者数及び外泊者数は 268 人と前年（283 人）と比べ微減となった。屋内で過ごす時間が多くなり、運動不足等からくる心肺機能の低下から心不全や肺炎による入院がみられた。
- ー 入退所状況：入所／6 人、退所／6 人
平均介護度 2.3（前年 2.3）
- (6) ふるさとシニアライフサポートセンター（小規模多機能ホームふるさと・サービス付きシニアマンションふるさと）
小多機登録定員 19 人/月に対し、登録者数/月平均 17.9 人（契約率 94.2%）、マンション延べ入居者数 215 人（平均 16.9 室/19 室：稼働率 91.6%）であった。小多機が前年比 105.9%、マンションが前年比 94.7%となり、小多機については改善が見られた。
- (7) ふるさとレスキュー事業
第二種社会福祉事業「生計困難者に対する相談支援事業」
長崎県内の複数の社会福祉法人による社会貢献事業「生計困難者レスキュー事業」に参加し、生活困窮者に対する相談支援事業を実施。県経営協の西海地区担当幹事法人（今年度より西彼地区と区割りした）として、またコミュニティ・ソーシャル・ワーカー（以下、CSW。）設置法人として、問い合わせ・相談受付 4 件について対応した。内 1 件を他法人へ繋ぎ、3 件について直接相談対応した。

○重点分野取り組み状況と課題

	R2年度；目標と目標達成計画	R2年度；取り組み状況
自立支援介護	<p>《目標》</p> <p>科学的介護の実践、ICT 管理によるケアの効率化を実現しアウトカム評価への準備を図る。</p> <p>《目標達成計画》</p> <p>① エビデンスに基づく介護を実践するために、ケアカルテ記録ソフトウェアベースの収集し活用する方法を検討する。</p> <p>② AI 等介護ロボット等導入についての検討を行うため、先進施設の視察・研修、業者からの紹介等にてモデリングする</p> <p>③ 眠りスキヤンの本格的導入、毎月のモニタリングで、業務の効率化</p> <p>④ 口腔ケアプロジェクトによる嚥下性肺炎ゼロプロジェクトに取り組み入院率の抑制を目指す</p>	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ケアカルテ」の活用により業務の効率化を図った ・ 県が主催した介護ロボットリモート見学会に参加した ・ 自立支援介護の先進施設の講習受講した ・ 眠りスキヤンを各事業所に導入活用は今後の課題 ・ 口腔ケアゼロプロジェクト開始 歯科医師、歯科衛生師のもと口腔ケア実践の標準化進め ・ 利用者への直接アンケート実施
安全対策	<p>《目標》</p> <p>事故対応、事故防止対策を正確かつ迅速に行えるよう体制を整備する</p> <p>《目標達成計画》</p> <p>① 利用者のアセスメントを確実にを行い、事故発生リスク表を検討する。</p> <p>② 事故発生リスクに基づく事故防止対策の具体例をリスト化し、対策の選択肢を増やす。</p> <p>③ 職員の危険予知能力アップ研修を行う。</p> <p>④ 事故対応時の緊急対応訓練（意識消失、転落、転倒時、嘔吐等の感染発症）を 10 分程度おこなえるようマニュアルを整備し、全事業所で毎月実施し習慣化する。</p>	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハットと事故対策の検証を毎月の事故防止委員会にて検討した。新規利用者のリスクについて検討し、センサーマット等の対策を行った。（特養） ・ 上半期はヒヤリハットを提出するだけになってしまっており、検証、分析が出来ていなかった。下半期は、各ユニットにてヒヤリハット、事故報告を基に検証、分析する事が出来た。（GH） ・ 安全管理委員会で話し合った内容は、各職員に周知し回覧を実施出来た。 ・ 事故後の検証は出来ているが、シェルモデルは活用出来ていなかった。 ・ 急病時などの際の連携は実施出来ていた。（2GH）

不適切ケア対策	<p>《目標》 身体的拘束等、不適切ケアについての共通理解を深め、防止対策としての標準化を目指す。</p> <p>《目標達成計画》 身体的拘束等適正化、及び不適切ケア防止のための推進委員を選定し、指導者として育成し、各事業所で定期研修を行えるようにする。</p>	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「利用者の声（要望・苦情）」を毎月の法人事業連絡会議にて共有した
ケアマネジメント	<p>《目標》 現職員から介護支援専門員の資格取得者を出す。</p> <p>《目標達成計画》 年度初めに法人内公募して、選定した職員に、6ヶ月間かけての受験対策研修参加費用を支援し2名合格者を出す</p>	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現職員から2名の資格取得を目指したが取得できなかった。
環境衛生	<p>《目標》 感染対策三原則の「持ち込まない、拡げない、持ち出さない」の徹底</p> <p>《目標達成計画》 ①特養の感染対策委員会と法人本部の感染対策と連動して、随時マニュアルを見直し、随時更新を対策委員会にて行う</p> <p>《目標》 清潔で快適な生活環境を提供し感染症を防止する。</p> <p>《目標達成計画》 ① 全事業所の施設内清掃業務にて介護サポーターを増員配置する。利用者居室は介護職主導で行い、共用部分（玄関、通用口、トイレ、廊下等）を介護サポーターで行う。 ② 各事業所の設備、公用車の点検、清掃業務の整備計画を立て定期的実施する。</p>	<p>《感染対策関係：取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナ感染対策の実施（標準予防の徹底、コホーティング等） ・ 感染症BCPの作成 ・ BCPに沿った改訂及び訓練実施 ・ 市内4特養で感染症協力体制の覚書締結 ・ 国の継続支援交付金により感染対策備品の整備 ・ 感染対策の備蓄物品・検査キット・予防対策衛生物品・機器等を確保した ・ インフルエンザ：GH、特養利用者各1名発生、GH職員1名発生。タミフルの予防投薬等を行い感染拡大を阻止した <p>《環境衛生関係：取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護サポーター等雇用し、施設内清掃を支援できた ・ 施設管理のための点検計画書を作成した

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">防災対策</p>	<p>《目標》 有事の際の機動力を確保する</p> <p>《目標達成計画》</p> <p>① 不審者マニュアル対応定期訓練実施（施設内隔月 全体研修1回）</p> <p>② 法人防災対策会議を3か月毎に開催し、各事業所の防災対策等の情報共有と、法人での統一した対策等を検討する。</p> <p>③ 緊急連絡一斉メールの創設</p> <p>④ 非常事持出袋の準備</p> <p>⑤ 備蓄の整備（本部 各事業所）</p>	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西海市福祉避難場所としてサポートセンターを登録 ・ 不審者マニュアル対応訓練の実施 ・ 法人防災対策会議の開催 ・ 全職員緊急連絡一斉メールの導入 ・ GH：自家発電設備（補助事業） ・ サポセン：自家発電容量の増強、台風による屋根材破損及び雨漏り修繕工事（保険適用） <p>※コロナ対策のため関係各機関との協議・訓練はできなかったため、書面での情報提供を行った</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人材育成</p>	<p>《目標》</p> <p>① 現状での職種別役割を可視化し、法人組織の求める役割を明確化し、標準サービスを定着させる</p> <p>② やりがいを持って働ける環境を整備し離職防止につなげる</p> <p>《目標達成計画》</p> <p>① 姿勢のルール、行動のルールを整備し、全職員に浸透していく（通年） 育成教育</p> <p>② 主任、管理者、リーダーの指導者教育を行う。</p> <p>③ 育成・指導行動の種別を明確にし重層な支援を図る職員の即戦力養成する。</p> <p>人事考課 各階層の業務の具体的役割を検討し、人事考課の評価基準に連動する。</p>	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織活性化コンサルティングで毎月、管理者クラスの研修を実施し指導者育成を行った ・ 「姿勢のルール」ブックレットを作成し、各職域で、ルールミーティング時間を設け全職員に浸透できた ・ 行動のルール及び標的行動を設定し、各階層の具体的役割を明確化、目標達成度についてPDCAのサイクルで評価者・被評価者双方で共有する成長のルールとして始動した。今後人事評価制度へ連動する。 ・ ICTによる事務効率の改善 ・ 「人材育成プロセス規程」を策定し、指導の統一性を図った。 <p>※ コロナ禍で、毎月の月例研修ができなかったが理事長の動画研修を配信した</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域との交流</p>	<p>《目標》</p> <p>地域における福祉サービスの中核を担う社会福祉法人としての自覚を持ち、地域の福祉課題の把握と解決に取り組む</p> <p>① レスキュー事業（県経営協主体）への参加と支援活動の実施</p> <p>② 介護予防出前講座を拡充（栄養士・介護職・看護師等による自立支援のための講義と演習を加える）</p> <p>③ 地域住民への支援 地域独居高齢者の通いの場の提供</p> <p>④ 介護ボランティアの創出</p> <p>高齢者の雇用促進、利用者との懇親 次世代の利用につなげる。</p>	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西彼・西海ブロックの幹事法人として西海地区の生計困難者支援を行政及び社協等関係機関と連携して行った ・ 西海市との福祉避難所設置に向け西海市福祉施設連絡協議会の会員施設として、その協定締結に取り組んだ <p>※多くの地域活動はコロナの影響でほとんど実施・参加できなかった</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">福利厚生</p>	<p>《目標》</p> <p>働き方改革を実践して、働きやすい環境を整備し離職を防止する。</p> <p>《目標計画》</p> <p>①業務効率化と人員配置の工夫にて時間外勤務の削減を図る（通年）</p> <p>②ライフワークバランスに合わせた勤務の在り方を実践する。子育て支援、フレックスタイムの導入を検討する。</p> <p>③年休取得を推奨し（一人年10日）休養を確保する。</p> <p>④衛生管理者における個別健康相談・指導を継続する。</p> <p>⑤メンタルサポートの整備を図る</p> <p>職場の個人相談体制として電話相談及び直接カウンセリングの希望を受け付け紹介する。</p> <p>リーダー、中堅職員にカウンセリングを含めたメンタル研修（年2回）を検討する。</p>	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常勤介護職の不足により、介護職の超過勤務削減には至らなかった ・ 施設見学会・地域介護教室開催、各種面談会がコロナ禍で中止となり、YouTube作成、オンライン面接を実施した。派遣・紹介業者、ちらし作成、ハローワーク、職員紹介など全職員あがりの求人を取り職員採用を行った。今年はアルバイトを6人雇用した ・ 有給休暇取得率（特休含む）38.2% ・ 衛生管理者における年2回の個別健康指導面談を継続した。各事業所の個人相談体制を明らかにして、職員のメンタル面での早期ケアに努めた ・ リモートにて中堅職員に外部でのカウンセリングを実施（20人）全法人ストレスチェックを実施しアフターケアも準備できた。

法人本部	<p>《目標》 法人の組織体制を整えマネジメント力を強化する。</p> <p>《目標計画》</p> <p>①組織活性化コンサルティング実施 管理者研修 姿勢のルール、行動のルールの策定・定着</p> <p>②法人本部事務業務の役割を明確化し分担する。</p> <p>③ICTによる事務効率の改善 「ネットで就業」「ネットで台帳」での労務管理の一元化を図る。</p> <p>④コンプライアンス整備 ハラスメント防止研修にての周知と徹底を図る。</p> <p>《目標》 法人の情報発信や求人募集の機会を増やし採用者増を増員する。</p> <p>《目標計画》</p> <p>①ホームページで法人情報を発信し、法人アピールし見学者、求人希望者を募る。ブログの随時更新</p> <p>②施設見学会・地域介護教室開催、各種面談会参加、学校訪問、派遣紹介依頼広告、ハローワーク掲載、全職員あがての求人希望者を発掘する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産休、育休（6人）、病休（2人）代替職員の採用含む ・採用目標：介護職常勤5人 看護職1人 <p>栄養士・調理員1人 事務員1人 介護サポーター2人</p>	<p>《組織マネジメント関係：取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織活性化コンサルティングで毎月、管理者クラスの研修を実施し指導者育成を行った（再掲） ・「姿勢のルール」ブックレットを作成し、各職域で、ルールミーティング時間を設け全職員に浸透できた（再掲） ・ICTによる事務効率の改善（再掲） ・コンプライアンス整備 就業規則でハラスメント規程を改定し、研修等を義務化した <p>《情報発信関係：取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年でホームページ、ブログの随時更新で法人情報を発信した。年間ビュー：13,870V（前年 8,926V/対比 155.4%） ・施設見学会・地域介護教室開催、各種面談会がコロナ禍で中止となり、YouTube作成、オンライン面接を実施した。派遣・紹介業者、ちらし作成、ハローワーク、職員紹介など全職員あがての求人を募り職員採用を行った。（再掲） <p>《採用関係：取り組み状況》</p> <p>採用面接 33件実施 採用 16人（常勤 11 非常勤 5） アルバイト 6人雇用 再雇用 1人（定年） 派遣職員 5人採用 派遣 3,695,179円 紹介費用 1,584,142円 求人広告費 384,038円</p>
------	---	--

2. 会務報告

(1) 理事会

回	日時	出席者	議 題	場 所
1	令和2年 6月8日 10:00～ ※一部オンライン 会議	理事：6名 監事：2名	(議案審議事項) ①令和元年度事業報告の承認について ②令和元年度決算報告(計算書類及び財産 目録)の承認について ③定時評議会招集について ④口腔ケアコンサルティング契約の承認 について (報告事項) ① 理事長の職務執行状況報告について	特養ふる さと2F 監事2名は オンライ ン参加
2	令和2年 8月11日 ※決議の 省略	理事：6名 監事：2名	(議案審議事項) ①社会福祉法人ふるさと評議員選任・解任 委員会委員の承認について ②社会福祉法人ふるさと評議員候補者の 承認について ③100万円を超える契約の承認について	
3	令和3年 1月18日 ※決議の 省略	理事：6名 監事：2名	(提案事項) ①就業規則等改定の承認について ②人材育成プロセス規程制定の承認につ いて ③西海市地域介護・福祉空間整備等補助金 事業について ④100万円を超える契約について	
4	令和3年 3月29日 13:30～ ※一部オンライン 会議	理事：6名 監事：1名	(議案審議事項) ①令和2年度第1次補正予算(案)の承認につ いて ②令和3年度事業計画(案)の決議について ③令和3年度事業予算(案)の決議について ④役員賠償責任保険契約の決議について ⑤職員給与規則の一部改定の承認につ いて ⑥評議員選任・解任委員会委員の任期満了 に伴う再任について (報告事項) ①理事長の職務執行状況報告について	特養ふる さと2F 坂本監事 はオンラ イン参加

(2) 評議員会

回	日時	出席者	議 題	場 所
1	令和2年 6月25日 10:00~	評議員:5名 理事:3名 監事:1名	(議案審議事項) ①令和元年度決算(計算書類及び財産目録他)の承認について ②令和2年度役員報酬総額について(報告事項) ①令和元年度事業報告について ②令和元年度事業計画及び予算について	特養ふるさと2F

(3) 監事監査

回	日時	参加者	内容	場所
1	令和2年 5月29日	監事:2名 理事長 会計責任者:1名	①令和元年度計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書の監査	特別養護老人ホームふるさと

3. 収支状況及び財産の状態の推移

事業活動収支及び貸借対照表

単位:千円

事業年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
前期繰越活動増減差額	310,150	327,989	333,317	363,834	367,686
当期活動収益合計	560,521	565,122	577,688	570,138	594,808
当期支出合計	542,684	559,794	547,172	566,286	566,909
当期活動増減差額	17,837	5,328	30,516	3,852	27,899
次期繰越活動増減差額	327,989	333,317	363,834	367,686	395,586
資産合計	1,388,669	1,363,001	1,364,779	1,337,121	1,323,276
負債合計	757,033	732,664	709,013	681,943	641,643
純資産合計	631,636	630,337	655,766	655,178	681,632

本年度は、前年度マイナス要因となった設備投資や想定外の修繕出費がなかったことと、各事業所における稼働率の改善、特に小規模多機能においては登録者の安定と併せ平均介護度の上昇により大幅な収益改善がみられたことにより、当期活動増減差額は27,899千円と大きく繰り越した。

これは前年度から取り組んでいる組織マネジメントの再構築プロジェクトの一つである組織目標の明確化により各職員の目標意識が向上したことと、目標自体が理念、使命

につながる役割と職務に具体的に紐づけられたことの効果の一つであると推測される。

※詳細は別資料「計算書類」参照

4. 社会福祉法人制度改革への対応

改正社会福祉法（平成 29 年 4 月 1 日施行）に基づき下記対応をとった。

- (1) 情報開示：現況報告書及び、令和元年度財産目録、計算書類、役員名簿、役員報酬規程等について、6 月末までに西海市に提出の上、ホームページで公表した。
- (2) 社会福祉充実残額の計算：「社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム」において公開された計算シートに沿って算定した結果、令和元年度社会福祉充実残額は「無し」であった。

5. 地域における公益的取り組みについて（法 24 条 2 項関係）

(1) ふるさとレスキュー事業

長崎県内の複数の社会福祉法人による社会貢献事業「生計困難者レスキュー事業」に参加し、生活困窮者に対する相談支援事業を実施。県経営協の西海地区担当幹事法人（今年度より西彼地区と区割りした）として、またコミュニティ・ソーシャル・ワーカー（以下、CSW。）設置法人として、問い合わせ・相談受付 4 件について対応した。内 1 件を他法人へ繋ぎ、3 件について直接相談対応した。（再掲）

(2) 「介護教室」「出前講座」等の開催及び講師の派遣について

平時であれば例年地域に対して介護制度関係の情報提供等実施するところ、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から本年度実施できなかった。

6. 規程等の制定及び改定

- ① 就業規則の改定（時間単位年休、介護看護休暇、ハラスメント対応、各種手当改定等）
- ② 人材育成プロセス規程の制定

7. 行政による指導監査

(1) 長崎県：特養実地指導監査（令和 2 年 11 月 4 日）

老人福祉法に基づく指定介護老人福祉施設等の実地指導。運営面は概ね良好。

主な指導事項（令和 2 年 11 月 16 日監査指導課発出文書）

- ① 身体的拘束等適正化指針委員会について
- ② 消防計画に基づいた自主点検について
- ③ 感染症予防対策に関する指針に委員会開催について
- ④ 調理室温について

- ⑤ 預かり金扱いについて
- ⑥ 時間単位有休取得について
- ⑦ 拠点区分間繰入について
- ※ すべて口頭指導、対応済み

8. 防災・防犯対策

(1) 防災対策

- ・ ふるさと非常災害対策計画（BCP）の見直し
- ・ グループホーム自家発電設備の整備
- ・ サポートセンター自家発電容量の増強

(2) 防犯対策

- ・ 各事業所における防犯訓練の実施

9. 主な法人行事

行事名	日付	参加等	備考
令和2年度 家族会総会（上半期）	令和2年4月	書面決議	令和元年度事業報告及び決算、 令和元年度事業計画及び予算、 役員改選他
ふるさと夏祭り	—	—	新型コロナ感染状況により中止
ふるさと敬老式典並びに敬老 演芸会	9月21日	利用者 132名 職員 115名	各事業所4か所を結んでオンラ イン開催にて実施。市長からも 動画で祝意を述べていただい た。また、後日ご家族へ動画配 信も行った
クリスマス・リモートコンサ ート	12月11日	利用者 職員	大阪市の大阪芸術大学ホルンア ンサンブルによるコンサートを リモートにて実施した
令和2年度 地域連携防災協力会議	—	書面報告	新型コロナ感染状況により集合 開催は中止し、施設概況につい て書面報告した

10. 研修・教育

(1) コンサルティング研修

講師：(株) ポストヒューマンジャパン谷本正徳氏

場所：特養内

月 日	内 容	参加者	
		職 名	数
令和2年	第11回組織活性化支援コンサルティング (Web 研修)	理事長	6
4月24日	① 「量子力学」を人間に応用した4つのタイプアセスメント の見方について研修 (理事長)	コンサルティング	
	② 課題テストの回答について (理事長)	メンバー	
	③ 既存の「姿勢のルール」運用について、各メンバーで 進捗状況を報告、要因を分析し、ルールを守らせるため の具体的対応策の検討を行う		
	④ 役割定義の策定方法と表の見方について説明 (理事長)		
6月4日	第12回組織活性化支援コンサルティング (Web 研修) ・主任・管理者級職員を対象に、自立支援介護の基礎理論 講座、主任クラスマネジメントマスタートレーニングを 実施	理事長 コンサルティング メンバー 主任・管理者	17
7月29日	第13回組織活性化支援コンサルティング (Web 研修) ・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象 ・人財成長マスタートレーニング (主任クラスマネジメント マスタートレーニング) を実施 ・チェックシートを使用して演習後、講義	理事長 コンサルティング メンバー 主任・管理者	17
8月7日	第14回組織活性化支援コンサルティング (Web 研修) ・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象 ・第2回人財成長マスタートレーニングとして講義 ・自己肯定感を学ぶ組織環境構造マネジメントメソッドを 学習	理事長 コンサルティング メンバー 主任・管理者	16
8月21日	第15回組織活性化支援コンサルティング (Web 研修) ・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象 ・主任クラス人材成長・組織環境構造マネジメント研修 ・自己肯定感セルフマネジメント、組織環境構造 マネジメントメソッドの学び	理事長 コンサルティング メンバー 主任・管理者	17
9月28日	第16回組織活性化支援コンサルティング (Web 研修)	理事長	17

	・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象	コンサルティング メンバー	
	・行動のルールと「標的行動」策定研修 ・「標的行動」策定ワークショップ	主任・管理者	
10月13日	第17回組織活性化支援コンサルティング(Web研修)	理事長	17
	・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象	コンサルティング メンバー	
	・リーダーシップトレーニング、科学的リーダーシップ マネジメント(理事長のみ)	主任・管理者	
	・行動のルール、第2介護事業部策定(コンサルティング メンバー、理事長)		
	・行動のルールと「標的行動」策定研修、「標的行動」 策定ワークショップ(コンサルティングメンバー、主任 管理職級職員、理事長)		
10月16日	組織活性化支援コンサルティング(リモート個別指導)	総務部長	1
	・組織環境マネジメント基礎編(個別指導)		
11月24日	第18回組織活性化支援コンサルティング(Web研修)	理事長	18
	・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象	コンサルティング メンバー	
	・「旬次の『結果の完了』フィードバック・ミーティング の要諦」「フィードバック力(1)」について、標的 行動策定ワークショップ	主任・管理者	
12月14日	第19回組織活性化支援コンサルティング(Web研修)	理事長	18
	・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象	コンサルティング メンバー	
	・行動のルール～標的行動～フィードバックミーティング の運用、行程の確認	主任・管理者	
	・上司が集中すべき5つのマネジメントカテゴリー&被る べきペルソナ		
	・フィードバック・マネジメント、聴き力、笑顔、言葉、 フィードバックミーティングの理解		
令和3年	姿勢のルール検討会	理事長	6
1月12日	・12日：姿勢のルールの追加と記載の順番について検討	コンサルティング	
1月19日	・19日：姿勢のルール・行動のルール検討会 12日の検討 についてのまとめ・仕訳 行動のルールの見直し 「収益性の向上と安定の確保」稼働率98%	メンバー	
2月2日	第20回組織活性化支援コンサルティング(Web研修)	理事長	18

	・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象	コンサルティング メンバー	
	・ワークショップ：第1・2介護事業部の行動のルール作成 姿勢のルール追加事項確認（理事長、コンサルメンバー）	主任・管理者	
	・組織環境構造マネジメントメソッド（無意識マネジメント メソッド）講義（主任・管理者参加）		
	・今後の標的行動完成とフィードバックを含めた考え方と スケジュールについて、理事長より説明		
2月23日	第21回組織活性化支援コンサルティング（Web研修）	理事長	17
	・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象	コンサルティング メンバー	
	・標的行動フィードバック面接の演習（理事長、コンサル メンバー）	主任・管理者	
	・「科学的介護（自立支援介護）メソッド」説明（主任・ 管理者参加）		
	・今後の標的行動完成とフィードバックを含めた考え方と スケジュールについて、理事長より説明		
3月25日	第22回組織活性化支援コンサルティング（Web研修）	理事長	17
	・主任・管理者級職員、理事長、コンサルティング メンバー対象	コンサルティング メンバー	
	・「科学的リーダーシップ・マネジメントとコミュニケー ションメソッド」講義（理事長、コンサルメンバー）	主任・管理者	
	・「1 on 1 フィードバックミーティング」ワークショップ やり取りの基本、各参加者の事例検討		
	研修回数 15回	延べ人数（名）	202

(2) 施設内研修

<業務研修>

場所：特養内

月日	研修名	講師・指導者	参加者	
			職名	数
令和2年 6月30日	高齢者施設等の新型コロナウイルス感染症対策研修 (リモート形式) ・福祉施設の質問事項 13項目に対して、長崎大学の先生より回答を頂いた		理事長 統括主任 介護主任 介護副主任 看護職 訓練指導員	9

7月8日 7月9日	誤嚥性肺炎ゼロプロジェクト 口腔ケアセミナー ・「介護事業所で取り組む 週2回の口腔ケア」について、 講義と実技を実施	外部講師： クロスケアデンタル 代表 瀧内博也氏	理事長 各職域主任 各職域副主任 ユニットリーダー 看護職 訓練指導員 生活相談員 介護支援専門員	17
7月18日 ～ 7月31日	緊急対応研修（意識消失時の 初動対応・DVD視聴） ・2017年10月25日の月例 研修にて実施した緊急時の 初動対応研修を記録した DVDを、看護職・各フロア 介護職全員が視聴。研修後、 アンケートを提出		介護職 看護職	48
8月3日	認知症研修 （4大認知症の正しい理解と ケア・資料回覧） ・「4大認知症の正しい理解と ケア」の資料を各部署に回覧		介護職 医務室 厨房 事務所	62
8月19日 8月20日	緊急対応研修 （酸素ボンベの使い方） ・酸素ボンベの保管場所、 操作方法の説明、見学、実技	橋本綾子（看護主任） 橋口藤枝（看護副主任） 宮崎妙子（看護師） 牛水朋子（看護師）	介護職	22
8月25日 8月26日	誤嚥性肺炎ゼロプロジェクト 口腔ケアセミナー ・「介護事業で取り組む週2回 の口腔ケア」の実技研修を 一般職員向けに各職域で 分れて実施（リモート研修）	外部講師： クロスケアデンタル 代表 瀧内博也氏	生活相談員 看護主任 訓練指導員 介護副主任 介護職 看護職	38
8月31日	介護技術研修（介護技術の チェックポイント・資料回覧） ・「介護技術のチェック ポイント・第1回 介護技術に 共通する重要視点」 （「おはよう21」から抜粋）		介護職 医務室 厨房 事務所	63

	の資料を各部署に回覧			
9月10日	観察力研修（観察力を高めるための知識と心得・資料回覧） ・「観察力を高めるための知識と心得」（「おはよう21」から抜粋）の資料を各部署に回覧		介護職 医務室 厨房 事務所	63
9月18日	感染訓練研修（春フロア） ・春フロアの利用者様1名様のご協力の下、新型コロナウイルス感染対策訓練を実施		理事長 看護主任 生活相談員 ユニットリーダー サブリーダー	7
9月22日	不適切ケア研修 （介護現場でよくある不適切ケア・資料回覧） ・「介護現場でよくある不適切ケア」の資料を各部署に回覧		介護職 医務室 厨房 事務所	65
10月5日	介護技術研修（介護技術のチェックポイント②・資料回覧） ・「介護技術のチェックポイント 起き上がり介助と臥床介助」（「おはよう21」より抜粋）の資料を各部署に回覧		介護職 医務室 厨房 事務所	65
10月9日	冬フロア緊急対応訓練研修（新型コロナウイルス感染症） ・職員や利用者様が新型コロナウイルス感染疑いと判明した場合を想定して、ゾーニングや物品搬入、ガウンテクニック等の訓練を実施		理事長 統括主任 生活相談員 厨房主任 介護副主任 ユニットリーダー 看護職 訓練指導員 介護職	17
11月25日	秋フロア緊急対応訓練研修（新型コロナウイルス感染症） ・職員や利用者様が新型		理事長 生活相談員 看護主任 看護副主任	12

	<p>コロナウイルス感染疑いと判明した場合を想定して、ゾーニングや物品搬入、ガウンテクニック等の訓練を実施</p>		<p>看護職 ユニットリーダー 介護職</p>	
10月27日	<p>研修 「2021年介護保険法改正・介護報酬改定の準備対策」 ・2021年介護保険法改正についての主なポイント、対策の解説</p>	<p>外部講師： 小濱介護経営事務所 小濱道弘氏</p>	<p>総務部長</p>	1
11月19日	<p>緊急対応研修（転倒・転落・骨折疑い時の対応） ・看護職が緊急対応マニュアル（転倒・転落時）を介護職と確認しあい、 イメージトレーニング ・各フロアで転倒リスクの高い利用者様への対応を確認</p>		<p>看護主任 看護職 介護職</p>	19
11月30日	<p>Web研修「働き方改革×コロナショックが与える福祉現場への影響と今後の対策」 ・直近10年間で福祉の現場にインパクトを与えた要素（コロナショックを含む）とその影響やこれからの起こりうる未来の想定、その際に必要とされる運営や人事マネジメントを考える</p>	<p>外部講師： 日本経営グループ副部長 (株)ミライバ取締役 江畑直樹氏</p>	<p>理事長 統括主任 生活相談員 人事部長</p>	4
12月1日	<p>緊急対応研修（転倒・転落・骨折疑い時の対応）2回目 ・看護職が緊急対応マニュアル（転倒・転落時）を介護職と確認しあい、 イメージトレーニング ・各フロアで転倒リスクの高い利用者様への対応を確認</p>		<p>看護主任 看護師 介護職</p>	13

	・前回の研修後に決めた夜間のオンコール対応についても説明			
12月2日 12月3日	メンタルサポート研修 (カウンセリング) ・昨年のステップアップ研修 (メンタルサポート研修・ カウンセリング実施)の フォローアップとして前回 参加者13名に加え、新たに 6名が参加し、昨年からの振り 返りと現在抱える課題等、個別 面談にてメンタルサポートを 実施 ・個別カウンセリング、管理者 との振り返りを実施	外部講師： 日本産業カウンセラー 協会 九州支部 事務局長 松本浩二氏 駒田優美子氏	統括主任 ユニットリーダー サブリーダー 介護職	15
12月7日	夏フロア緊急対応訓練研修 (新型コロナウイルス感染症) ・職員や利用者様が新型コロナ ウイルス感染疑いと判明した 場合を想定して、ゾーニングや 物品搬入、ガウンテクニック等 の訓練を実施 ※春・夏サンルームをあじさい 居室(夏フロア)と見立て実施		理事長 生活相談員 介護主任 訓練指導員 看護職 ユニットリーダー 介護職	11
12月16日	リモート研修 「新型コロナウイルス感染症 について」 ・新型コロナウイルス感染症に ついてのリモート研修を実施 ・高齢者施設による検体採取 方法、診断方法、検体採取の 介助 ・PPE 脱衣時の注意点 ほか	外部講師： 長崎県福祉保健部 医療政策課 医師 安藤隆雄氏	看護主任 看護職	2
12月22日	新型コロナウイルス発生時 対応研修(各フロア) ・施設内での新型コロナ		看護職 訓練指導員 介護職	21

	<p>ウイルス発生時を想定した対応の研修を実施（各フロア時間別で実習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニング（テープを床に貼って区域を明示）、食事提供時の対応、排泄・入浴介助時の対応、リネン・衣類の洗濯対応 <p>ゴミの処理等を看護職が実演しながら説明</p>			
12月25日	<p>PPE 着脱実技研修（冬フロア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふんわりチャンポン大作戦」資料の PPE 着脱方法の動画を参考に、PPE 着脱の実技研修を実施 		<p>介護副主任 ユニットリーダー 介護職</p>	6
12月27日	<p>PPE 着脱実技研修（冬フロア）</p> <p>2回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふんわりチャンポン大作戦」資料の PPE 着脱方法の動画を参考に、PPE 着脱の実技研修を実施 		<p>介護副主任 介護職</p>	4
令和3年 1月14日 1月28日	<p>緊急対応研修（嘔吐時の対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐時の対応について <p>各フロアで看護職・介護職がマニュアルを読みながら確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐しやすい場面（食後、緩下坐薬使用后、入浴時等）を説明 ・感染症のおそれがある食べ物の特徴、感染が疑われる時の対応について話し合う ・職員が嘔吐や下痢をした際の対応について確認 		<p>介護職 看護職</p>	30
2月2日 ～ 2月26日	<p>緊急対応研修 （意識消失時の対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職、看護職、訓練員全員が意識消失時の対応に関するDVD動画を視聴（2/2～2/17） 		<p>DVD 視聴</p> <p>介護職 看護職 訓練指導員</p>	50
			<p>実技研修</p>	

	・最近入職した介護職員を優先的に各フロアより2名・看護職2名で役割分担し、利用者の意識消失時の実技研修を実施		介護職 看護職 訓練指導員	16
3月15日 ～ 3月26日	身体拘束廃止・高齢者虐待防止についての研修 ・身体拘束廃止、高齢者虐待防止について、令和元年度の高齢者虐待防止法に基づく対応状況等に関する調査結果資料等を参照しながら実施		介護職 調理員	44
		研修総数 27 回	延べ人数 (名)	724

<動画配信>

場所：YouTube ふるさと公式ページ

月 日	研 修 名	講師・指導者	参 加 者	
			職 名	数
令和2年 7月27日	新型コロナウイルス感染対策について	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
8月4日	市内感染者発生 of 報を受けて	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
8月4日	県内感染急増を受けての長大会見の解説	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
8月10日	新型コロナウイルス感染症 Q&A	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
8月19日	《理事長メッセージ》日本介護福祉士会会長所信表明から介護福祉士の展望	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
8月25日	取引先との接触にCOCOA活用	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
8月31日	新型コロナウイルス感染症対策パッケージの説明	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
9月9日	新型コロナ感染段階ステージの目安について	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
9月18日	医療従事者がCovid-19陽性者と接触した場合のリスク評価と対応	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
10月9日	新型コロナ感染症BCPの改訂	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
11月5日	感染症の“いま”についての10の知識についての解説	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
12月27日	行動・心理症状に着目した認知症ケアアプローチ	全国老施協動画配信	全職員視聴	

12月28日	《理事長メッセージ》年末の挨拶	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	
3月4日	姿勢のルール追加ルールの解説	北島淳朗（理事長）	全職員視聴	

<新任職員研修>

場所：特養内

月 日	研 修 名	講師・指導者	参 加 者	
			職 名	数
令和2年 4月2日	観察・高齢者の疾病と理解の研修 ・高齢者の疾病の特徴 ・高齢者に多い主な疾患について 簡単な病態・症状・対応 高血圧、脳血管障害（脳出血、 脳梗塞、くも膜下出血）、 心臓病（狭心症、心筋梗塞、 心不全）、脱水症、糖尿病	橋本綾子（看護主任）	介護職	2
4月3日	排泄・整容・移乗・個浴の研修 ・業務マニュアルに沿って研修を 実施	平野律子（統括主任）	介護職	1
4月27日	ケアプランについての研修 ・ケアプラン作成から モニタリング、カンファレンスに ついて ・24時間シートの位置づけ、記入 の方法やポイント、効果について	岩永浩（生活相談員）	介護職	2
9月11日	新任職員研修 ①法人ふるさと概論 （理念、福祉、介護保険制度、 法令遵守、ふるさと組織概要、 業務マニュアル） ②姿勢のルール、法令遵守、 感染症 他	北島淳朗（理事長） ” ” ” 永田住江（副施設長） ”	介護職 介護サポーター 調理員 栄養士	8
10月6日	食事介助・口腔ケアマニュアル ・食事介助・口腔ケアの基本を 理解し、安全な食事介助・口腔 ケアを行うことで誤嚥性肺炎を ふせぐための指導 ・水分のトロミなし／トロミ付き の飲み比べ、嚥下状態の確認	川口直美（訓練指導員）	介護職	1

10月12日	新任職員研修 ・法人ふるさと概論 (理念、福祉、介護保険制度、 法令遵守、ふるさと組織概要 他)	北島淳朗 (理事長)	総務部長	1
10月16日 10月23日	バイタルサインについての研修 ・春フロアの利用者様のご協力の 下、バイタル測定研修を実施 1日目：実技説明 2日目：テスト	橋本綾子 (看護主任) 宮崎妙子 (看護師)	介護職	1
10月16日	高齢者の疾病と理解の研修 ・マニュアルに沿って、高齢者の 主な疾患の概要、日常状態の観察 把握、室温・湿度管理や換気等 について解説	橋本綾子 (看護主任)	介護職	1
10月26日	排泄についての研修 ・マニュアルに沿って研修を実施	平野律子 (統括主任)	介護職	1
12月25日	新任職員研修 ①法人ふるさと概論 (理念、福祉、介護保険制度、 法令遵守、ふるさと組織概要 他) ②組織マネジメント構築 「姿勢 のルール」と「行動のルール」 ③労務全般、ハラスメント防止、 感染対策について	北島淳朗 (理事長) 〃 〃 〃 永田住江 (副施設長) 〃	看護職 事務員 (内、アルバイト1名) 介護職	6
研修総数 10 回			延べ人数 (名)	24

<月例研修>

場所：特養内

月 日	研 修 名	内 容
令和2年 4月1日	月例研修 (法人) 参加者 79 名	令和2年度永年勤続表彰 (起算日4月1日)、人事について、 令和2年度事業方針・中期事業方針、処遇改善加算・特定処遇 改善加算計画について、「利用者の声」という権利擁護、 自立支援 (科学的) 介護に関して、今年度の取り組みについて、 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の現状 (法人予防対策など)、

		の運用について ほか
5月23日 ～ 6月15日	月例研修（法人） 参加者 63名	5月分の月例研修を、別紙資料に沿って各職域で実施 ・北島理事長より（全施設共通）： 感染防止対策として事業所連絡会議の形式変更の連絡、 新型コロナウイルス感染拡大防止について（各通知、感染状況の確認、各ケースの職員対応の内容確認など）、姿勢のルール徹底、 夏祭りの開催形態の変更、自立支援介護について ・太田管理栄養士より：食中毒予防についての研修（共通） ・24時間シートについて（特養） ・認知症の行動・心理症状の対応について（共通）
10月21日	月例研修（法人） 参加者 56名	令和2年度永年勤続表彰（起算日10月1日）、人事について、 感染症対策（結核予防について）、法令遵守、ハラスメント防止について、 利用者の現況とケア対応について、身体的拘束等適正化指針
11月25日	月例研修（法人） 参加者 38名	人事について、新型コロナ最新情報（各地の感染状況、感染対策）、 組織活性化支援コンサルティング「行動のルールと標的行動」について（ 標的行動策定方法と運用スケジュール等の説明）、 防災対策（緊急一斉メール（23日）実施結果についての報告）、 褥瘡予防対策・事例検討、 「利用者アンケート調査」「利用者の声」の結果報告・総括、 夜間（遅出・夜勤）時の緊急対応手順について、 職員求人についての依頼
		研修総数 4回 延べ人数（名） 236名

(3) 施設外研修

月 日	研 修 名	場 所	参 加 者	
		会 場	職 名	人数
令和2年 10月5～7日	認知症実践者資格取得研修	オンライン研修	管理者	1
10月7日	令和2年度介護サービス事業者集団指導		理事長 副施設長 生活相談員 総務主任	4
10月12日	認知症介護実践者資格取得研修	オンライン研修	管理者	1

～13日				
10月21日	高齢者・障害者入所施設における 新型コロナウイルス感染対策 Web 研修会 主催 長崎県西彼保健所 地域保健課 中村まき子氏 樋口敦子氏	オンライン研修	理事長	1
11月28日	光洋ディスパース第2回横浜フォーラム 主催 (株)光洋ディスパース	オンライン研修	理事長 生活相談員	2
11月30日	WAM 経営セミナー 主催 日本経営グループ 株式会社ミライバ	オンライン研修	理事長 総務部長	5
			副施設長 統括主任 生活相談員	
12月1日	ふんわりちゃんぽん大作戦 主催 公益財団法人 風に立つライオン基金 後援：厚労省・内閣府	オンライン研修	理事長 副施設長 生活相談員 センター長 統括主任 管理者 看護主任 訓練指導員 看護師	14
12月15日	介護サービス事業生産性向上セミナー 主催 長崎県	オンライン研修	理事長 総務部長 統括主任 生活相談員	4
12月16日	新型コロナウイルス感染症について オンラインセミナー 主催 長崎県	オンライン研修	看護主任 看護師	2
令和3年 1月11日 ～ 4月13日	喀痰吸引研修（通信学習） 主催 (株)オーボックス	オンライン研修	ユニット リーダー サブリーダー	3
2月10日	令和2年度長崎県老協施設協 Web 研修会 主催 県老協	オンライン研修	理事長 生活相談員 統括主任 総務主任	4
2月18日	ケアコネクトジャパン Web セミナー	オンライン研修	理事長	3

	主催 ケアコネクトジャパン		生活相談員 総務主任	
2月22日	全国経営協後期セミナー	オンライン研修	理事長 総務部長 生活相談員	3
2月24日	LIFE 対応自立支援介護導入教育セミナー 主催 ポスト・ヒューマン・ジャパン	オンライン研修	理事長 生活相談員 センター長 総務主任	4
2月25日	ケアコネクトジャパン Web セミナー 主催 ケアコネクトジャパン		副施設長 生活相談員 総務主任	3
2月26日	(株)クリニコ×ナースの星 主催 経腸栄養分野における小口径コネクタの国際規格 (ISO) 導入 ～経腸栄養療法での感染対策を踏まえて～ (WEB セミナー)	オンライン研修	看護副主任 看護職 訓練指導員	6
3月2日	(株)ガネット主催 介護業界特化・新卒採用成功セミナー		統括主任 人事部長	2
3月2日	長崎県生計困難者レスキュー事業 全体会議	オンライン研修 長崎県社協	理事長 センター長 生活相談員	3
3月5日	全国老協経営戦略セミナー	オンライン研修	副施設長 センター長 生活相談員 総務主任	4
3月11日	Dr ネット症例研修会 主催 長崎県医師会	オンライン研修	理事長 生活相談員 看護主任 看護職	4
3月15日	認知症介護管理者資格取得研修	オンライン研修	管理者	1
～16日				
3月16日	先進ヴァーチャル見学会 主催 長崎県	オンライン研修	理事長 生活相談員 統括主任 ケアマネ 看護師	5

3月24日	長崎県介護報酬改定説明会 主催 長崎県	オンライン研修	理事長 副施設長 生活相談員 総務主任 介護副主任	5
		研修総数 23回	延べ人数	84

(4) 資格取得（キャリア形成）支援

- ・ 認知症介護実践者研修 2名
- ・ 認知症対応型サービス管理者研修 1名
- ・ 喀痰吸引研修 3名

1 1. 助成・補助事業

○西海市地域介護・福祉空間整備等補助金

事業名：グループホームふるさと LPG 非常用小型発電機設置工事

事業計画

- ・ 整備内容：LPG 非常用小型発電機の導入設置
- ・ 納入業者：テックスイインターナショナル株式会社
- ・ 事業費：2,442,000円
- ・ 補助金：1,953,000円
- ・ 完了日：令和3年2月26日

1 2. その他報告すべき主な事業

(1) 全事業所) 嚥下性肺炎ゼロプロジェクト口腔ケアコンサルティング

- ・ 整備内容：自立支援介護及び嚥下性肺炎発生抑制に資する口腔ケア技術のコンサルティング
- ・ 契約業者：(株) クロスケアデンタル 代表取締役 瀧内博也（歯科博士）
- ・ 事業費：月額 175,000円（年額 210万円）
- ・ 契約日：令和2年6月24日

(2) 特養) 医務室小型分包機導入

- ・ 整備内容：事故防止及び業務効率化に資する小型散薬分包機のリース契約
- ・ 納入業者：株式会社富士医科精器
- ・ 事業費：1,150,000円
- ・ 納入日：令和2年6月24日

(3) 法人) 業務効率化に係るシステム構築業務契約

- ・整備内容：情報共有及び決裁プロセスの透明化を図るための業務効率化アプリの開発及び導入
- ・契約業者：(株) アイコック
- ・事業費：1,860,000円
- ・契約日：令和3年1月21日

13. 職員異動

	増				減			
	採用		異動		退職		異動	
施設・事業所	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特 養	8	5	0	0	10	4	0	1
G H	0	0	0	0	0	0	0	0
第 2 G H	2	0	0	0	2	1	0	0
サ ポ セ ン	1	0	0	1	2	0	0	0
居 宅	0	0	0	0	0	0	0	0
計	11	5	0	1	14	5	0	1
総 計	16		1		19		1	
職 種	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
介 護 職	5	1	0	0	4	1	0	0
看 護 職	3	1	0	1	3	1	0	1
ケ ア マ ネ	0	0	0	0	0	0	0	0
事務・調理員・雑務	3	3	0	0	7	3	0	0
アルバイト	0	6	0	0	0	1	0	0
そ の 他	病休4名、産休・育休4名、派遣職員採用5名							

○ 永年勤続表彰者 計 19名（内2名は非常勤のためふるさと会より15,000円支給）

勤続 30年1名（特休7日 慰労金70,000円）

20年1名（特休5日 慰労金50,000円）

15年10名（特休4日 慰労金30,000円）

10年2名（特休3日 慰労金20,000円）

5年5名（特休2日 慰労金10,000円）

以上

令和 2 年度事業報告

「特別養護老人ホームふるさと・短期入所生活介護」

1. 事業概況

令和 2 年度の入所者状況は、在籍率は 98.4%と昨年度と比べ、1%減であった。年平均介護度は 4.0 と昨年度より 0.1 軽くなっている。入院数は一日平均 2.6 人で、年平均入所者数は 66.9 人。年間を通しての入院者数は 950 人で昨年と比べ入院者数が 349 人減少となった。

退所者は 19 人で昨年より 8 名減少。内、長期入院のための退所が 5 人、死亡退所が 14 人、内医療機関での死亡が 6 人、施設での看取りケアを 7 人実施している。利用者の在所期間は 3.0 年と昨年より期間が延びており、入院者数も減少し、昨年と比べると入退所が少なく、利用者の状態も落ち着いていた。

短期入所利用状況については、一日平均 8.6 人。昨年より 0.7 人増加し、年間の稼働率は 85.7%で昨年より 6.4%増加となった。

新型コロナウイルス感染症対策として、法人の事業継続計画を策定し、ご家族、関係取引先へ面会や入館制限を実施し、各種研修会や会議はリモート開催、職域内の行き来も最小限とし、接触の機会を少なくし感染対策を行った。また、職域にて感染対策訓練を実施した。

QC活動は各職域で課題を抽出し、問題解決へ向けたプロセスを経てそれぞれに業務効率化が図られている。

キャリアパスとして、アセッサー制度によるレベル認定の促進や介護支援専門員・介護福祉士・喀痰吸引等の様々な資格取得支援を継続している。

防災対策としては非常災害対策として停電時を想定した災害訓練を実施し、BCP計画に沿った訓練及び見直しを行った。

地域貢献事業として、「生計困難者レスキュー事業」の西彼・西海ブロック幹事法人として生活相談員が当法人居宅支援事業所管理者と協働し、相談・支援対応している。

2. 特別養護老人ホームふるさと利用状況

(1) 延入所者数状況 (満床数 25,550 人)

延入所者数は 25,380 人で 稼働率は 99.3% うち、延入院者数は 950 人で一日 2.6 人、延実利用者数は 24,430 人で平均入所者数 66.9 人

年月日	延入所者数 (在籍者)	延入院者数	延実利用者数 (在籍者－入院者)	対前年比
令和 2 年 4 月	2,076	45	2,031	
令和 2 年 5 月	2,166	56	2,110	
令和 2 年 6 月	2,092	109	1,983	
令和 2 年 7 月	2,153	87	2,066	
令和 2 年 8 月	2,154	65	2,089	
令和 2 年 9 月	2,049	4	2,045	
令和 2 年 10 月	2,170	22	2,148	
令和 2 年 11 月	2,094	100	1,994	
令和 2 年 12 月	2,166	119	2,047	
令和 3 年 1 月	2,165	191	1,974	
令和 3 年 2 月	1,936	60	1,876	
令和 3 年 3 月	2,159	92	2,067	
合 計	25,380	950	24,430	
令和 2 年度	稼働率 99.3%	一日平均 2.6 人	平均入所者数 66.9 人	100.9%

(小数点第 2 位四捨五入)

(2) 月別入退所者数の状況

年間入所者数 19 人 退所者数 19 人の内、死亡退所が 14 人、（施設での死亡 8 人で看取りケア実施が 7 人、医療機関での死亡 6 人）長期入院のための退所が 5 人

年月日	一日現在 入所者数	月内の異動		平均介護度
		入所	退所	
令和 2 年 4 月	70	3	3	4.1
令和 2 年 5 月	70	1	1	4.1
令和 2 年 6 月	70	1	2	4.1
令和 2 年 7 月	69	2	2	4.1
令和 2 年 8 月	69	2	3	4.0
令和 2 年 9 月	68	2	1	4.0
令和 2 年 10 月	70	1	0	4.0
令和 2 年 11 月	70	1	1	4.0
令和 2 年 12 月	70	1	1	4.0
令和 3 年 1 月	70	1	2	4.0
令和 3 年 2 月	69	3	2	4.0
令和 3 年 3 月	70	1	1	3.9
合 計		19	19	4.0

(3) 入所申し込みについて

- 令和 2 年度末での入所待機者数 32 人
内、介護保険施設等に入所中 9 人 医療機関入院中 11 人
在宅生活 12 人

3. 短期入所生活介護利用状況

延利用者数

介護度別	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	稼働率 %
令和2年4月	0	0	61	60	105	12	23	261	87
令和2年5月	0	0	67	62	141	12	0	282	91
令和2年6月	0	0	49	67	93	48	19	276	92
令和2年7月	0	0	64	68	60	49	31	272	87.7
令和2年8月	0	0	75	114	48	18	2	257	82.9
令和2年9月	0	4	76	92	41	17	8	238	79.3
令和2年10月	0	0	60	70	45	30	0	205	66.1
令和2年11月	0	0	56	104	54	28	0	242	80.6
令和2年12月	0	0	57	116	73	30	0	276	89
令和3年1月	0	0	50	129	65	6	0	250	80.6
令和3年2月	0	0	53	130	56	14	0	253	90.3
令和3年3月	0	0	53	116	118	28	0	315	101.6
合計	0	4	721	1,128	899	292	83	3,127	85.7
令和2年度	延利用者数		3,127	一日平均利用者数		8.6人	稼働率		85.7%

(小数点第2位四捨五入)

※ 令和2年度延利用者数状況 (満床数 3,650人)

年間延べ利用者数は 3,127 人で、一日平均 8.6 人で年稼働率は 85.7% となり、入所の空室利用は 24 日

4. 分野別重点計画振り返り

	重点取り組み方針	取り組み状況と課題
自立支援介護	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間シートの活用と統一したケアの提供 <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間シートの作成内容の手順を見直し、職員研修の為のパワーポイントの作成を4月までに行う(池田 岩永) ・職員に対しての研修を5月の主任リーダー会議で行う(岩永) ・リーダーが5月のフロア会議で研修を行い、介護職員への研修を実施する。その後は、随時、修正や確認を行う。 <p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄向上委員会を中心に、基礎から排泄介助の方法を見直す。 排泄モニタリング加算について、勉強会を行う。 <p>《達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業者よりオムツの当て方の勉強会を開催する。4月末までに日程の調整を行う。上半期には勉強会を実施する。 ・排便コントロールを多職種連携で継続して行う。 ・個々に応じた排泄パターンを把握する ・排泄物品使用量を把握、確認し、利用者に合った物品の検討を行う。 ・便秘体操やお腹に良い食べ物の検討を行う。 ・排泄モニタリング加算についての勉強会を主任・リーダー会で行う。 	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間シートの記入の方法の研修、周知は出来たが、正確な記入がまだ出来ていない職員もおり、リーダーからの指導が徹底出来ていない。リーダー確認後の主任からの修正の確認が出来ていない。冬フロアは、池田副主任が必ず確認が出来ていた。後の春・夏・秋が記入の仕方が正確ではない時があった。 <p>24時間シートがケアの統一の見本だと理解はしているが、ケアの変更があった時に、24時間シートへの変更記入の出来ていない。24時間シートの記入のようにケアを進めていない時があった。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間シートがケアの統一の見本だと、理解を深めること。 ・ケアの変更があった時には、周知し、24時間シートを変更行うこと。 ・リーダー・主任がケアの統一の徹底を指示できていないこと。 <p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄向上委員会にて、個々に応じた、排泄の取り組みは実施出ている。 自然排便への取り組みでは、水分補給状態を把握し、個々に応じた水分補給が出来た。 便秘体操への取り組みも実施出来ている。 ・排泄支援加算についての勉強会は統括が勉強不足で、実施しなかった。

<p style="text-align: center;">自立支援介護</p>	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間行事を中心に、月間行事を見直し、計画を立て、実施する。 <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月5日までにフロアの行事の年間計画を提出する。 ・5月初旬までに、レク委員会の年間計画を提出する。 ・フロアレクを中心に、個々に応じた楽しみを見つけて、充実した生活を送って頂けるように支援していく。 	<p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、行っている排泄のケアは加算にどう対応出来るのか、主任が理解出来ていない。 ・個々に応じた排泄の取り組みを行っているが、自信をもって行っていない。 ・排泄ケアに必要な物品予算を出していないため、毎月使用料の金額を出しているが、反映出来ていない。
---	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">安全対策</p>	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの検証と事故対策の検討 <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの検証を毎月の事故防止委員会で検討する ・事故防止委員会で KYT シートを活用し事故発生リスクを考える研修を行う。3 か月 1 回。 ・新規入所者についての事故リスクの検討を情報会議にて多職種で検討し対策を行う。 ・センサーマットと眠りスキャンの使用状況をユニット共有で行い、適切な使用を進める。 ・眠りスキャンの睡眠データを事故防止委員会で活用し適切な時間帯での排泄誘導を行う。 ・利用者の状態把握と認知症ケア対応でいち早くケアが行われ、事故を未然に防ぐことができるよう、センサーマットやジョイントマットの購入の検討（センサーマット 2 台、サイドセンサー 2 台 ¥20,4000） 	<p>《取り組み状況》</p> <p>ヒヤリハットと事故対策の検証を毎月の事故防止委員会にて検討した。新規利用者のリスクについて検討し、センサーマット等の対策を行った。</p> <p>《課題》</p> <p>各フロアでのヒヤリハットや事故の報告となっており、その後のモニタリングの結果や有効な対策など活発な意見交換が必要。</p>
---	---	---

<p style="text-align: center;">不適切 ケア 対策</p>	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対する適切な言葉使いの徹底 <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対する言葉かけを互いに職員同士が気を付け、確認する ・利用者や家族からの苦情や要望がないか各フロア会議で確認しながら日常ケアや言葉使いについて確認する ・苦情や要望の発生時には上司へ報告を上げ、迅速で適切な対応を行い、身体的拘束等適正化検討委員会や主任リーダー会議等で共有する。 	<p>《取り組み状況》</p> <p>身体的拘束等適正化委員会にて不適切ケアについての確認を行い、苦情報告についても対応や検証を行い、各職域で周知し情報を共有している。</p> <p>《課題》</p> <p>年2回の研修の実施のために事前準備から計画的に行うことが必要</p>
<p style="text-align: center;">ケア マネ ジ メント</p>	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員を中心とした、ケアマネジメント概念の研修を実施し理解を深める <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上半期までに2～3回に分けケアプラン研修を実施する 	<p>《取り組み状況》</p> <p>モニタリングは各フロア実施できている。ケアプランの研修の実施ができなかった。</p> <p>《課題》</p> <p>集合体での研修ができないため、少人数、職域単位での研修の実施を考える。</p>

<p style="text-align: center;">環境衛生</p>	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活環境を整え、快適に過ごす環境を作る <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護サポーターを中心に、計画を立てて清掃を実施していく 掃除箇所の確認、職員全員が把握できる掃除箇所チェック表を作成し、確実に掃除が出来るようにしていく。 	<p>《取り組み状況》</p> <p>介護サポーターを中心に、実施し、管理棟の清掃は出来ている。</p> <p>各フロアの清掃は、春・夏・冬はサポーターが実施出来ていたが、秋フロアはサポーター不在の為、実施出来ない所もあった。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理棟はサポーターを中心に実施出来可能 フロアは、サポーターがいないと個々での清掃はケアを行いながらは難しかった。
<p style="text-align: center;">防火・防災・防犯対策</p>	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 有事の際の備えを万全にする <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> 防火、防災、防犯訓練の年間計画を立て計画に沿って訓練を実施する <p>防火訓練：4月 7月 10月 11月 2月 3月</p> <p>防災訓練：6月 9月 12月</p> <p>防犯訓練：5月 8月 1月</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間計画に沿った訓練を通して、必要と思われる物品を検討購入していく 	<p>《取り組み状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間計画に沿って防火、防災、防犯訓練の実施できていた。地震を想定した訓練も今年度初めて行うことができた。 物品関係はナイトライトやモバイルバッテリー等、停電時の代替品を整備することができた。 夜間避難訓練マニュアルや不審者対応手順書、さすまたの使用法説明書等の見直しや作成を行った。またBCPの更新も随時行っている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での防火、防災、防犯訓練の実施について各職域にて実施してもらっていた為、実施状況が把握しづらかった。訓練自体の工夫が必要と感じた。 委員会の開催が少なく、防災委員への訓練の周知やフィードバックができていなかった。

<p style="text-align: center;">人材育成</p>	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の研修や知識向上を目指す。 <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任会議の時に、マニュアルに沿って、確認を行い、必要に応じて、手順書の作成を行う。 ・年代別に応じた、研修を行うために、研修内容の把握に必要なアンケートを実施し、研修内容の検討を行い、研修を実施していく。アンケート実施 4月末。 研修内容検討 5月末まで。 研修実施。8月開始。 	<p>《取り組み状況》</p> <p>回覧研修しか実施出来なかった。看護職が主導し、コロナ対応研修、緊急対応の研修は実施出来ている。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層別の研修が必要
<p style="text-align: center;">地域貢献・交流</p>	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来を見据えた福祉人材の育成と確保を目指す <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に小学校との連絡を取り、福祉講座の日程を調整する。11月までに施設の訪問の日程調整し利用者との交流を行う 	<p>《取り組み状況》</p> <p>コロナの影響で地域の学校との交流ができなかった。</p> <p>《課題》</p> <p>コロナ禍での新たな地域との交流を検討。</p>
<p style="text-align: center;">施設管理</p>	<p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告を受け、早期の対応を行う <p>《目標達成計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の設備点検、確認を行い、不良時には本部へ報告し、可能であればその日のうちに業者への連絡、対応を依頼する 	<p>《取り組み状況》</p> <p>各フロアからの備品、設備不良等の報告があり、業者への早期連絡を行っている。特に利用者の生活に直結することは早期に対応している。</p>

4. 会議・委員会開催状況

(1) 主任会議等	46回	
(2) フロア・ユニット会議	79回	
(3) 入所検討委員会	13回	
(4) 事故防止・事故事例検討会	14回	
(5) 衛生委員会	12回	
(6) 法人苦情解決委員会	1回	
(7) 感染対策委員会	13回	
(8) 身体的拘束等適正化検討委員会	11回	
(9) 広報委員会（法人合同）	4回	
ふるさと便り	175号～177号（4事業所合同）	3回発行
(10) ケアカンファレンス	12回	
モニタリング	53回	
(11) 栄養ケアカンファレンス	12回	
(12) 褥瘡防止委員会	13回	
(13) 給食委員会	9回	
(14) 医療委員会	1回	
(15) レクリエーション委員会	1回	
(16) 排泄向上委員会	14回	
(17) 防災委員会（法人防火管理者）	3回	
(18) 法人事業所連絡会議	12回	

5. 研修会参加状況

(1) 施設外研修

コロナ禍において、ほとんどの外部研修の中止となり、年度後半はオンライン研修に変更となった。21回参加し延べ人数は71人。

(2) 職場内研修

- ・ 職場内における研修もコロナ感染対策にて、三密を避け各職域・または個別での動画研修・書面閲覧研修を実施し、新型コロナ感染対応実技演習をより多く実施した。
- ・ 介護技術、褥瘡防止、身体拘束廃止、虐待防止、事故防止、感染症対策、ケアの向上、クレーム対応 認知症、医療、衛生教育等について、

月例研修、及び随時の業務研修、動画研修等 28 回実施した。延べ人数 742 人参加。

- ・ 組織活性化のためのコンサルティングを毎月継続し管理者研修を実施した。15 回実施した。
- ・ 事業所連絡会議と主任リーダー会議等で役職者へ事業所の円滑な運営のための各フロアを主体とした研修計画を策定し実施した。
- ・ 職域ごとに業務改善活動に取り組み、各職域で管理者や主任を中心として Q C 活動に取り組む（10 職域）
- ・ 新任職員研修については、従来通りの全法人で対面にて講義と演習にて基礎概論及び目標設定を行った。10 回実施延べ 20 人参加した。（入職 3 年未満対象）

6. 福利厚生・労務管理

(1) 健康診断

- ・ 雇入れ時、5 月に全職員、10 月夜勤職員を対象に実施。
診断結果について、生活習慣病の傾向が強く、産業医の所見を基に衛生管理者による全職員に細やかな個別面談と衛生教育を実施した。
- ・ 治療が必要な職員の継続指導を実施している。

(2) ストレスチェック制度

- ・ 労働安全衛生法第 66 条規程に基づき、産業医の管理指導のもと、全職員のメンタル面の不調者を未然に防止を目的とした、心理的な負担の程度を把握するため日本マネジメントリサーチに委託し 1 月実施。結果については個人面談等を行い、職場環境の診断と改善についての課題を検討した。

(3) メンタルヘルス対策

- ・ 昨年に引き続き、中堅職員 16 人のメンタルサポート研修として、日本産業カウンセラー協会の支援にて個別カウンセリング（リモート）を実施した。そして、今後も、随時、継続支援可能な体制を確立してきた、

7. 感染症予防対策

長崎西彼保健所より、最新の感染発症動向調査を情報収集し、嘱託医指導管理の下、感染対策委員会での周知、予防対策、労務管理に努めた。

(1) 健康診断・美化衛生

- ・ 9月1日に長崎健康事業団による全利用者の結核健康診断を実施。毎月の業者による害虫駆除と及び職員による清掃チェックを実施した。

(2) インフルエンザ予防対策

10月利用者及び職員のインフルエンザ予防接種を実施した。利用者1名入院時に発症診断されたものの、職員にはタミフル予防投薬を実施し、その後、利用者、職員に感染がみられなかった。

(3) 新型コロナウイルス感染症予防対策

- ・ 昨年度末からの新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、昨年2月27日から面会制限実施し、5月12日はウィンドウ面会を開始するも再び感染が流行し、明解制限を実施。9月24日からウィンドウ面会を開始し、10月には法人の面会基準を設け、ホームページにおいて公表している。取引業者については入館チェックシートの記入、検温測定、手指消毒の徹底を実施。9月1日からはインターネット回線通じたリモート面会を開始する。
- ・ 法人において「新型コロナウイルス感染症事業継続計画」を策定し、感染症の発生予防と発生した場合に備えた職員の対応や動きについて計画を策定し、そのBCPに沿った訓練を実施している。

8. 誤嚥性肺炎ゼロプロジェクト

- ・ クロスケアデンタルと連携し、正しい口腔ケアの指導のもと「誤嚥性肺炎ゼロプロジェクト」に取り組む。介護スタッフが正しい口腔ケアの知識、技術を習得し、誤嚥性肺炎の予防に努めている。
- ・ 7月8日、9日に管理者、主任クラスを対象に初級セミナーを開催。
- ・ 8月に一般職員向けのセミナーを開催（リモート）
- ・ 9月から週2回の口腔ケア、口腔マッサージ、リハビリをスタートする。
- ・ 10月と3月に・歯科医・歯科衛生士によるOHAT評価を実施。（3月はオンラインOHAT実施）
- ・ 12月より毎月1回の口腔ケア委員会を4回リモートで開催し、口腔ケ

アの実施状況や課題を共有している。

9. 防災対策

(1) 防災訓練

- ・ 避難訓練（夜間時想定訓練も含む）6回、消火訓練4回、通報訓練5回、防災教育9回、夜間出動訓練2回を実施。
- ・ 総合訓練2回（11月20日・3月11日）
新型コロナウイルス感染症流行にて11月のみ佐世保東消防署西彼出張所立会指導のもと訓練を実施した。
- ・ 消防設備点検立入検査（6月22日）
新型コロナウイルス感染症対策にてFAXにて調査表を送付
- ・ 9月6日～8日 台風10号の接近にて30時間に及ぶ停電を受け、災害用物品の整備を行った。

(2) 防犯対策

- ・ 5月・8月・1月実施。
手順書をもとに、不審者侵入時の対応、さすまた訓練を実施。
5月の訓練にて手順書の見直し、修正を行なった。

9. 長崎県指導監査

11月4日に実施。老人福祉法に基づく指定介護老人福祉施設等の実地指導。運営面で概ね良好との評価。

11. 地域貢献

- ・ レスキュー事業
 - ・ 西彼・西海ブロックの幹事法人として生活相談員・当法人居宅支援事業所管理者と連携し生計困難者レスキュー事業を継続実施。
 - ・ 12月2日に西海地区のブロック会議を8法人参加のもと実施し、コロナ禍におけるレスキュー事業の進め方等について協議する。また、西海地区の来年度の幹事法人の変更について、次年度より西海市手をつなぐ育成会へ幹事法人の変更を協議し了承された。
 - ・ 3月2日 長崎県生計困難者レスキュー事業全体会議（オンライン）に参加。全体会議後に西海・西彼地区のブロック会議を開催。
 - ・ 問い合わせ・相談受付4件で昨年より13件減少。2件を支援対応実

施した。

1 2. 行事

(1) 9月21日 ふるさと敬老会 法人各事業所ごとに実施

(2) 9月 利用者アンケート実施

11月11日 ゲーム大会

12月11日 クリスマスコンサート (大阪芸術大学よりリモート)

(3) 誕生会毎月各フロアにて実施

(4) レクリエーション

コロナ禍で、フロア間の移動もままならない状況で、毎月10日に季節のメニューに応じた食事会(お楽しみ献立)や、各フロアでの調理レク(おやつ作り)リハビリを兼ねての野菜作り、園芸、誕生会を実施した。

1 4. 施設見学及び入所相談

- ・ 入所相談・施設見学(個人)8件

令和2年度事業報告「居宅介護支援センターふるさと」

1. 事業概況

地域包括ケアシステムの推進にあわせ、居宅介護支援事業所として、住み慣れた地域で暮らす要支援・要介護者にたいして、在宅にて自立した生活が継続できるようにケアマネ二人体制を取りケアプランを作成し、サービス展開を実施している。

また、社会福祉法人の地域貢献事業として、福祉事業や介護保険制度への疑問や超高齢化社会に伴う「認知症の増加」での対応について、「介護教室」や、地域の老人会等が実施している「生き生き体操」等へ出向き、介護予防の重要性や自立支援について話し合い等へ参加予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大にて地域へ出向いての、地域の問題点等の意見を聞く機会は開催できなかつたため、電話等での相談支援は実施できた。さらに、今年度も生活困難者レスキュー事業へ取り組みを特養相談員と一緒に実施した。また、法人役員として地域密着型事業所の施設長として、「身体拘束に繋がる不適切ケア」一掃を目的とした「認知症の理解と対応」について指導・指示を行っている。

また、新型コロナウイルス感染対策についても、終息が見込まれない状況なので、利用者・家族へその都度状況報告し、感染予防の協力をお願いしている。

2. 利用状況

月 別	介護予防利用者	介護支援利用者	計
R02・4月	7人	38人	45人
5月	7人	36人	43人
6月	7人	36人	43人
7月	8人	33人	41人
8月	8人	38人	46人
9月	9人	35人	44人
10月	7人	34人	41人
11月	8人	37人	45人
12月	7人	40人	47人
R02・1月	6人	36人	42人
2月	5人	38人	43人
3月	5人	40人	45人
合 計	84人	441人	525人

- ※ 月平均 介護 $441 \text{ 人} \div 12 \text{ ヶ月} = 36.8 \text{ 人}$
 予防 $84 \text{ 人} \div 12 \text{ ヶ月} = 7 \text{ 人}$
 計 $525 \text{ 人} \div 12 \text{ ヶ月} = 43.8 \text{ 人}$

- ※ 居宅介護支援利用者については、在宅での支援が困難になった場合に、利用者の状況

を検討して法人施設への紹介を行っているので、利用者の変動がある。

3. 活動状況

(1) 介護認定訪問調査

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い長崎市からの施設入所者へ対しての調査依頼はなかったが、新上五島町・大村市より各1件あり合計2件実施する。

※ 西海市介護認定審査会へ福祉専門員として委託受け年6ヶ月審査会へ出席
7月より9月まで 1月から3月まで

(2) 地域住民への介護教室

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大にて地域開催の会議や老人クラブ主催の「生き生き体操」等も蜜を避けての少人数で集まり開催の為に、地域からの依頼等なかった。又、法人としても、感染予防対策の観点から、不特定多数の方との集まりの場への参加の自粛で、居宅としても参加を控えた面もある。

(3) 地域ケア会議

包括支援センター主催の地域でのケア会議についてはコロナ感染拡大に伴い中止であったが、予防利用者・地域情報等での意見交換はその都度出来ている。地域ケア会議全体会議がオンラインで開催され参加し、地域の情報収集が出来た。

(4) 施設外研修会について

主任介護支援専門員更新研修・介護支援専門員更新研修の申請は実施していたが新型コロナウイルス感染症の県内拡大に伴う1年間の更新猶予期間を申請し令和3年度に更新研修を受講予定。又、主任介護支援専門員更新に必要な年間18時間の更新該当研修へ3日間参加し研修受講は行っている。

(5) 法人事業所内研修

コンサルティング研修会	14回
地域密着型全体会議 各施設にて	12回
新型コロナウイルス感染対策オンライン研修	5回以上
法人経営会議 毎週月曜日	
地域密着型管理者会議 毎週火曜日開催	
地域密着型運営推進会議の開催	3施設 年6回

(6) 法人介護支援専門員連絡会議

法人の介護支援専門員の質の向上のために会議の開催を2ヶ月に1回程度予定をしていたが、コロナ禍で開催はできなかった。居宅事業所としては、新規の相談時、モニタリングでのプラン変更時にその都度協議し、本人の自立へ向けたサービス計画作成に繋がるよう検討会は実施出来た。

(7) 生活困難者レスキュー事業

特養相談員と一緒に西海市・長与・時津地区の幹事法人として、在宅で生活に困窮されている、すべての方の相談を受け付けて登録法人への引き継ぎや、自宅を訪問し直接支援を行った。参加法人の情報共有の場として、ブロック会議 1 回 西海地区会議 1 回開催し、幹事法人の持ち回り協議実施を行い、令和 3 年度より幹事法人交代となる。

(8) 地域防災対策連携会議

社会福祉法人として地域貢献の為に、法人施設の防災・防火に対して取り組みや設備等の説明・意見交換を地域・行政・消防・警察等と実施。有事の際の施設機能の役割等を地域と共に共有し、法人より地域に対しての協力と貢献内容等を話し合う予定であったが、コロナ禍で法人施設設備や概要等を文書で関係者へ送付して、協力依頼を行った。

(9) 法人防犯対策訓練

令和元年度は西海警察署へ依頼し不審者の対応訓練等を実施したが、コロナ禍にて大勢集まったの訓練の実施できなかった。ケアマネとして在宅訪問した際は、利用者の生活状況を聞く際に不審電話等での被害を受けないようにその都度情報の提示を行い安心・安全に暮らせるように説明を行っている。

4. 分野別重点計画振り返り

	令和2年度；目標と達成計画	令和2年度：取り組み状況と課題
自立支援介護	<p>[目標] 地域高齢者への安心確保</p> <p>[目標達成計画] 地域包括支援センターとの連携を十分取り合い、独居・老夫婦世帯が地域から取り残されないように、地域ケア会議へ出席し情報収集を行う ⇒(3ヶ月1回)</p> <p>[目標] 在宅での自立支援へのアプローチを図る</p> <p>[目標達成計画] 医療保険改正に伴い、入院期間の短縮にてリハビリの終了を待たずに退院される利用者の増加が見込まれるので、退院前カンファで関係機関との情報交換を十分に実施し、住み慣れた地域・在宅で自立して生活出来るようサービスプランを検討する。 ⇒月末モニタリング実施</p> <p>[目標] 地域共生社会実現のための連携</p> <p>[目標達成計画] 生活困難者へ対してレスキュー事業や市内の福祉関係者での専門性を生かし自立への支援。⇒依頼時早急に</p>	<p>地域高齢者の安心安全の確保の為地域包括支援センターと連携し、独居・高齢者世帯が地域より取り残されないような地域ケア会議の開催がコロナ禍で中止となったが、独居の利用者や高齢者世帯の生活については、現在担当している利用者は勿論の事、地域より相談を受けた場合は、直ぐに訪問し生活の確認を実施し、多職種連携して対応を行っている。</p> <p>在宅での自立支援へのアプローチは、コロナ禍で退院前カンファは情報交換のみで訪問しての状況把握には至らなかったが、限られた情報の中で、在宅復帰後のサービスプラン作成は実施でき、毎月のモニタリングでのサービスプラン変更にも対応できた。</p> <p>レスキュー事業については、幹事法人として地域からの依頼対応と、西海地区の担当者との情報交換・会議等の実施も行い、西海地区幹事法人の持ち回り等の協議も実施できた。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">安全対策</p>	<p>[目標] 退院後の在宅の環境整備</p> <p>[目標達成計画] リハビリ担当者との連携を密に取り、入院前の生活情報と退院後生活について、本人・家族の意向に添ったリハビリ計画を作成して頂くために、情報交換を実施する。 ⇒ 月末モニタリング実施</p> <p>[目標] 地域災害対策会議への参加</p> <p>[目標達成計画] 地域で実施される会議等へ参加し、社福の役割等の説明を行い、有事の際の利用等について説明を行う。 ⇒ 半年に1回</p>	<p>天気予報や環境情報をいつも観察し、悪天候が予想される場合(台風・大雨・大雪)は、在宅訪問し対応策を本人・家族と検討して、市内の避難所等の確認を行い避難支援を行う。又、独居生活者へは介護保険サービスの利用限度額等でのショートステイ利用を早めに計画し、精神的な不安を取り除く支援も実施した。在宅へ戻られた利用者の生活がスムーズに行えるように、リハビリ担当者と連携を密に取り住改や福祉用具等の利用にて、月末のモニタリングやリハビリ会議等への出席で随時検討し自宅内での事故予防はできた。ケアマネとして地域で開催される防災会議や訓練等への参加も希望していたが、コロナ禍で中止が多く参加はできなかった。ただし、法人としての地域連携協力会議については、法人施設の概要や訓練実施状況等を行政・消防・地域警察・地元役員・連携施設へ文書で説明し、今後も連携して地域防災へ取り組む文書会議を実施した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ケアマネジメント</p>	<p>[目標] 自立支援に向けてのケアプラン作成</p> <p>[目標達成計画] ケアマネジメントの理念に基づき、本人の自立に向けたケアプランの作成。 ⇒その都度</p> <p>[目標] ケアマネとしてスキルアップを図る</p> <p>[目標達成計画] 主任介護支援専門員の更新研修 ⇒令和3年3月まで 介護支援専門員更新研修 ⇒令和3年3月まで</p>	<p>[取り組み状況] 昨年11月よりケアマネを1名増として、新規利用者獲得も包括・医療・地域からの情報で増加したが、地域の特性や住民の理解・介護保険サービスの地域性・インフォーマルなサービス等については、徐々に理解しケアプランへ繋げる事も出来るようになってきている。今後も地域の特性や自立支援へ向けたケアプランの作成を指導・アドバイスを行い、地域に根差したケアマネの育成を行っていく。ケアマネ2人体制で地域からの依頼に対して迅速に対応し、居宅サービス利用者も増加した。コロナ禍でのサービス事業所の変更等へも本人・家族と十分協議し在宅で生活が継続可能なプラン変更等で対応を行った。ケアマネの資質向上については、コロナ禍で更新研修への参加は見送り3年度受講。</p>

地域との交流	<p>[目標] 社福法人として専門的知識・技術を生かし地域支援事業の実施</p> <p>[目標達成計画] 西海市のケアシステムの構築に向けて、法人の専門性を各地域区長・老人会・子供会・婦人会等の会議へ定期的に参加し、地域が直面している課題等と暮らしについて、一緒に検討しアドバイスを行う。 ⇒ 年4回以上(5月・7月・10月・1月)</p>	<p>コロナ禍で地域住民の集まり場も減少して専門的なアドバイスや相談援助は計画どおりに実施することはできなかった。今年度は、介護報酬定や新型コロナワクチン接種等での地域からの疑問・質問等が多く見られると予想されるので、感染対策をしっかりと取って地域へ出かけ専門職として地域支援を実施していく。</p>
--------	--	--

2. 目標稼働率

年間契約者数	840人	
介護 (月30×2) 60名	50人	83.3%
予防 (月5×2) 10名	10人	100%
延べ実利用者数	720人	85.7%

介護 ケアマネ一人当たり 30名

予防 5名

令和2年度事業報告「グループホームふるさと」

令和2年度の「グループホームふるさと」の事業について、次のとおり報告いたします。

1. 令和元年度活動概況

家庭の延長としてのグループホームの機能・役割を認識し、趣味や生活歴を活かしたレクリエーションや生活リハビリ、家族や地域との交流などを取り入れた行事計画に沿って活動を展開した。

令和2年度は、延べ入院者数及び外泊者数132人で前年（7人）と比べる入院者が大幅に増加した。これは、コロナ禍において屋内での生活が大半となり、活動量が落ち食事・水分量が低下したことによる心身異常や、ストレス増による行動異常等が要因と考えられる。入院が長引く中で医師や家族との調整を行っていたが、医師の判断により退所となった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響にて感染対策訓練やリモートでの会議、研修を開催した。事業所としては、感染予防対策の徹底、感染予防対策訓練を行い利用者様、職員とも感染者を出すことがなかった。また、感染予防の観点から面会方法をウインドウ面会、リモート面会として行い、利用者様、家族様の不安の軽減を図った。今後の課題としては、面会制限が続く事が考えられる。いまより更に利用者様の情報を詳しく家族様へ知らせる方法を全職員にて検討していく必要がある。

令和2年度の運営推進会議については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、6回中3回は書面にて（文書審議・電話での意見聴取）にて開催した。

2. 利用状況

項目	今年度	前年度	対前年比	
年間延べ満床者数	6,570名	6,588名		
年間延べ利用者数	6,555名	6,516名	100.6%	↑
延べ入院・外泊日数	132日	7日	1885.7%	↑
年間延べ実利用者数	6,416名	6,509名	98.6%	↓
実稼働率	97.6%	98.9%	98.3%	↓
延べ未契約日数	22日	47日	46.8%	↓
平均介護度	1.72	1.78		

3. 入退所状況

	種 別	人 数	備 考
R2年8月	退 所	1名	長期入院の為
R2年9月	入 所	1名	真珠園より
R2年12月	退 所	1名	長期入院の為
R3年1月	入 所	1名	自宅より

○ 入所者総数：2名

○ 退所者総数：2名

4. 分野別重点計画振り返り

	R元年～R2年度：目標と目標達成計画 (予算組み必要であれば計上)	取り組み状況と課題
自立支援介護	<p>≪目標≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター方式を全職員で学ぶ。 <p>センター方式を活用して、ご利用者様により寄り添ったケアをおこなえるようにする。</p> <p>≪目標達成計画≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、勉強会の資料を作成する。 2、12月に勉強会を実施。 3、3月末までに、全利用者分を作成 	<p>≪取り組み状況≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター方式のC-1-2は作成する事が出来たがそれをケアプランに活かすまでには至らなかった。取り組むことによって、職員が利用者様の話をして新たな情報を聞き出す事が出来た。
安全対策	<p>≪目標≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの重要性を全職員理解し、ヒヤリハットの件数を増加させる事で、事故防止にも努めていく。 <p>≪目標達成計画≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ヒヤリハットの様式を見直し、修正する。(手書きで出しやすい書式へ変更) 2、ヒヤリハット、事故の検証分析 	<p><取り組み状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上半期はヒヤリハットを提出するだけになってしまっており、検証、分析が出来ていなかった。下半期は、各ユニットにてヒヤリハット、事故報告を基に検証、分析する事が出来た。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事故件数をまとめ、来年度は事故件数を減少していけるようにする。

不適切ケア対策	<p>≪目標≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不適切ケアについて学び、会議等で意見交換し不適切ケア0を目指す。 <p>≪目標達成計画≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半期に1度「虐待の芽チェックリスト」に全職員で取り組む。 ・毎月の会議の中で、不適切ケア、グレーゾーンについても話し合う。 	<p>＜取り組み状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不適切ケアについての会議、身体拘束廃止委員会にて毎月意見交換出来た。しかし、1月に1件不適切ケアがあり。すぐにユニットにて対応しGH会議内でも全職員にて協議した。
ケアマネジメント	<p>≪目標≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「利用者の声」を1日1件は記入していく。集めた情報をケアプランに反映させていく 2. 支援経過パソコンでの記録へ移行。 <p>≪目標達成計画≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうじゅの中のアセスメントの関わりの欄に会話内容を記入する。(本人の趣味、昔のしていた事等) 1人1日1件 ・ユニット会議内で、記入した職員からどういった場面、声かけ、話のもっていき方で聞き出したか全職員で共有する 2 <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうじゅのモニタリング一覧(○×方式)を活用する。令和元年度の3月に説明、令和2年度の4～8月を移行期間として9月から完全移行する。 ・早出職員は13:30～14:00までを記入の時間。遅出は、ナイトケア後21:00～21:30で記入行う。(時間はユニット内が落ち着いた時間) 	<p>＜取り組み状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員でちょうじゅのモニタリング一覧(○×方式)を活用する事が出来るようになった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続していけるように習慣づけをしていきたい。

<p style="text-align: center;">環境衛生</p>	<p>≪目標≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掃除が行き届いた環境の中で気持ちよく過ごしていただきたい。 <p>≪目標達成計画≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、4月に美化担当が大掃除等の箇所、日程を決める。 2、日程に合わせた勤務調整を管理者が行う。 3、掃除チェック後不備のあった箇所は翌日までには対応する 	<p>＜取り組み状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な掃除は美化担当が主となり計画的に行っていた。エアコンや換気扇フィルターの掃除は行っていたが、換気扇の内部等細かい箇所の掃除が不十分でした。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 換気扇内部等は男性職員が主となり毎月1回掃除計画を立てる。
<p style="text-align: center;">防災対策</p>	<p>≪目標≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BCP（火災を含む）に沿った動きが全職員出来るようになる。 <p>≪目標達成計画≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、令和2年度の訓練計画のスケジュール作成。 2、毎月の防火訓練、3ヶ月に1回の防災訓練の実施。 	<p>＜取り組み状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練は計画的に行えたが、防災訓練は3ヶ月に1回出来ておらず。計画通りに進める事が出来なかった。 ・ 3月に非常用発電機の設置を行い、最低限の電力確保が出来るようになった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定日に確実に出来るように、人員配置の調整が必要 ・ 毎月の非常用発電機の使用訓練の実施
<p style="text-align: center;">人材育成</p>	<p>≪目標≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急対応、感染症対策に沿った行動が全職員行える。 <p>≪計画≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、看護師と研修を行う。 2、参加できなかった職員等はユニット会議や日々のミーティングの中でも情報の共有していく。 	<p>＜取り組み状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急対応、感染症対策研修行えたが、毎月計画が遅くなりバタバタなっていた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急対応訓練、感染症対策訓練は毎月1回では少なかった。全職員把握し動けるようになる為に、毎月2回医療連携の際に看護師と一緒に訓練していく必要あり。

地域との交流	<p>≪目標≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画性を持ち、勤務表にて人員を調整しながら地域の行事に参加。外出支援を行う。 <p>≪目標達成計画≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、毎月の地域行事等を調べる。 2、外出時の勤務調整（管理者） 3、全利用者様、外出支援が出来るように参加者を決め計画する 	<p><取り組み状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ渦にて地域の方々との交流やイベント等に参加出来なかった。主に、施設周辺の散歩や日光浴を実施。人混みを避けたドライブ等実施した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に比べ外出支援が少なかった。今年度ドライブ等にて行って人混みが少ない場所等が分かってきたので来年度は人混みを避けた外出支援も多くしていきたい。
施設管理	<p>≪目標≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設設備の点検をおこなっていき、不具合箇所の早期発見、早期対応に努めていく。 <p>≪目標達成計画≫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、施設敷地、建物管理者（男性職員）が毎月1回の点検、日々の点検を行う。 2、老朽化、不具合の箇所があったら管理者へその都度報告し補修、修理をおこなっていく。外注する場合は、施設長、法人本部へ連絡する。 	<p><取り組み状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不具合があった箇所の修理や修繕は行っていた。しかし、施設長が修理等を行っていた箇所等も多く見られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームには現在男性職員が4名いるので自分達で出来るような修理、修繕は施設長に教わり、自分達で積極的に修理、修繕していけるようにしていく。

5. 入所者状況（令和2年3月31日現在）

入居人数	18名（男性／4名 女性／14名）		
要介護区分（平均介護度：1.8）			
要支援2（0名）	要介護1（10名）	要介護2（3名）	
要介護3（4名）	要介護4（1名）	要介護5（0名）	
年齢	平均 89.6歳（最低／81歳）（最高／101歳）		

6. 運営推進会議の開催状況

以下の構成員にて6回の運営推進会議を開催し、活発な意見交換を行った。

委員	利用者家族	1名	西海市職員	1名
	地域住民の代表	3名	西海市社協	1名
施設	・理事長・統括施設長 ・ひなげし棟管理者・すずらん棟管理者			4人

○実施状況

回	月日	場所	参加人数	主な協議テーマ
第1回	5月12日	文書による 書面開催	10名	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度目標計画 身体拘束等適正化委員会 利用状況と活動状況 意見交換（電話にて）
第2回	7月15日	グループホーム ふるさと	9名	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスについて（行政・地域での対応） 身体拘束等適正化委員会 利用状況と活動報告 意見交換
第3回	9月30日	文書による 書面開催	10名	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 身体拘束等適正化委員会 利用状況と活動報告 意見交換（文書による）
第4回	11月18日	グループホーム ふるさと	8名	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様アンケート 身体拘束等適正化委員会 利用状況と活動報告 意見交換
第5回	1月15日	文書による 書面開催	10名	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価について 身体拘束等適正化委員会 利用状況と活動報告 意見交換（文書による）
第6回	3月10日	グループホーム ふるさと	10名	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度目標達成計画 身体拘束等適正化委員会 利用状況と活動報告 意見交換（文書による）

7. 主な活動状況

年間を通した活動・行事			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誕生会（各ユニットにて開催） ・ 避難訓練（毎月1回） ・ 夜間出動訓練（年に2回） 			
主な月別行事（上記月例行事を除く）			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライブ（七ツ釜、伊佐の浦） ・ 花見ドライブ（虚空蔵山） ・ 花まつり 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ お月見 ・ ドライブ ・ 笑いヨガ ・ 赤い羽根共同募金
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母の日茶話会 ・ こどもの日茶話会 ・ 菖蒲湯 ・ ちまきづくり 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花植え ・ 秋祭り ・ ドライブ ・ 消火訓練
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ バラ風呂 ・ 笑いヨガ ・ 父の日茶話会 ・ 園芸 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリスマスコンサート ・ クリスマス会 ・ 干し柿作り ・ 餅つき
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 七夕茶話会 ・ 作品作り ・ スイカ割り 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新年祝賀会 ・ 鬼火
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ かき氷パーティー ・ 野菜の収穫 ・ 牡丹餅作り ・ 饅頭作り 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節分豆まき会（恵方巻） ・ バレンタインデーおやつ作り
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敬老会リハーサル（リモート） ・ 敬老演芸会（リモート） ・ フォトコンテスト 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひな祭り茶話会 ・ おやつ作り ・ ドライブ ・ おはぎ作り

8. 会議・研修会開催状況

(1)	グループホーム会議	12回
(2)	ユニット会議	12回
(3)	避難訓練	12回
(4)	事業所連絡会議	12回

9. 研修参加状況

【法人内研修】

- ・ 口腔ケア研修 6回（各2名ずつ）
- ・ コンサルティング研修 12回（各2名ずつ）

【外部研修】

- ・ 衛生推進者養成講習 1名
- ・ 認知症対応型サービス施設管理者研修会（リモート） 1名

【外部評価】

全職員にて、自己評価実施し、1年間の活動状況や反省点を再確認する。
令和2年11月19日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、リモートでの外部評価受講となる。（一般財団法人 福祉サービス評価機構 SEO財団）
受講後、結果内容を全職員へ周知し、GH会議にて令和3年度の目標達成計画を全職員で決める。

令和3年2月24日、西海市へ外部評価結果報告書類提出。

令和2年度事業報告「第2グループホームふるさと」

令和2年度の「第2グループホームふるさと」の事業について、次のとおり報告いたします。

1. 事業概要

家庭の延長としてのグループホームの機能・役割を認識し、趣味や生活歴を活かした生活支援や、家族や地域との交流などを取り入れた行事計画に沿って活動を展開した。通年で退所5件、入所6件の異動があった。

延べ満床数について6570人に対し、利用者数は6514人となり契約数が99.14%(目標達成率98%)となった。又、延べ入院者数及び外泊者数は268人と前年(283人)と比べ微減となった。屋内で過ごす時間が多くなり、運動不足等からくる心肺機能の低下から心不全や肺炎による入院がみられた。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴いご家族、協力の基、リモート面会実施し直接会えないストレスを本人様やご家族共に軽減した。また、職員については感染対策の研修会や対応、対策の訓練を実施した。ハード面についても、飛沫防止シールド、体温計(センサー式)、オゾン発生装置など出来る限りの対応を導入している。

地域密着型サービス事業者に義務づけられている「運営推進会議」を年6回開催(内3回は書面審議)した。活動状況、防災関係などの意見交換行えた。

地域との交流においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、人との接触を避け、利用者様の出身地に出掛け、喜びを感じて頂いた。

職員の状況については4名の退職者と、1名の病休があっており、補充や両棟の職員協力し合い業務を遂行した。

2. 利用状況

項目	2020年度	2019年度	対前年比	
年間延べ満床者数	6,570名	6,588名	—	—
年間延べ利用者数	6,514名	6,466名	100.7%	↑
延べ入院・外泊日数	268日	283日	94.7%	↓
年間延べ実利用者数	6,246名	6,183名	101.0%	↑
実稼働率	95.1%	93.9%	101.3%	↑
延べ未契約日数	56日	122日	45.9%	↓
平均介護度	2.3	2.3	—	↓

3. 入退所状況

月日	種別	人数	備 考
5月	入所	1名	自宅より
	退所	2名	長期入院の為
6月	入所	1名	杏林病院より
9月	入所	1名	自宅より
	退所	1名	病院にて死亡
11月	入所	1名	自宅より
	退所	1名	長期入院の為
1月	入所	1名	自宅より
	退所	1名	長期入院の為
2月	入所	1名	自宅より
	退所	1名	法人事業所へ

○ 入所者総数：6名

○ 退所者総数：6名

4. 分野別重点計画振り返り

	R2年度；目標と目標達成計画 (予算組み必要であれば計上)	R2年度；取り組み状況と課題
自立支援介護	<p>目標 利用者の生活リズムを把握し、24時間シートを作成し、定期的に更新する。</p> <p>目標達成計画 1, ちょうじゅにて各利用者の24時間シートの入力を行う(4月末) 2, 24時間シートに沿って統一した援助を行う。 3, 定期的な見直し(6ヶ月に1度)</p> <p>※必要に応じて随時見直す</p>	<p>取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24hシートを基にしてケアプランへ反映させているが、部分的にしか反映できていなかった。 ・6ヶ月に1回の更新一部できているが、できていない部分もある

<p style="text-align: center;">安全対策</p>	<p>目標 各職員のヒヤリハットを月に10件以上挙げ、各棟の毎月のヒヤリハット件数を80件以上にする。</p> <p>目標達成計画 1,各職員のヒヤリハット件数を毎月記載する様式の作成(4月末) 2,安全管理委員会で、担当職員が提出件数をまとめる。(毎月) 3,昼のミーティングで各職員の提出件数を周知。(安全管理委員会の翌日)</p>	<p>取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの件数が下半期に入り減って来ている。ミーティングの時にヒヤリハットの報告は実施出来ていた。 ・安全管理委員会で話し合った内容は、各職員に周知し回覧を実施出来た。 ・事故後の検証は出来ているが、シェルモデルは活用出来ていなかった。 ・急病時などの際の連携は実施出来ていた。
<p style="text-align: center;">不適切ケア対策</p>	<p>目標 身体拘束等適正化、また認知症に対する意識の向上を図る。</p> <p>目標達成計画 1,安全対策会議の中で話し合った内容をユニット会議で、報告し、ユニット会議に参加している職員の意見も聞き、全員に周知する(月1回)。 2,認知症における周辺症状の理解と対応についての、研修会を実施する(6月、1月) 3,身体的拘束に繋がる「不適切ケア」が起こらないように毎月のユニット会議の中で協議した内容を身体的拘束等適正化委員会で報告をする。(年6回)</p>	<p>取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修(認知症)は1月と9月に実施されている。又、当日、参加していない職員についても資料を配布し目を通すように指示行った。 ・安全対策会議での結果についてはユニット会議にて報告する事ができた。 ・利用者に対しての声の掛け方について、必要時にその都度、注意や指導行った。 ・運営推進会議の中でも身体拘束等適正化委員会の内容を報告しアドバイスや事例も頂いた。
<p style="text-align: center;">ケアマネジメント</p>	<p>目標 24時間シート・アセスメントの情報を基にケアプランの作成を行う。</p> <p>目標達成計画 ① 1,24時間シート・アセスメントで情報を収集後、ケアプランに反映させる。(5月から)</p>	<p>取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QC活動は実施し、センター方式の活用についての勉強会を行い、ケアプランに反映した。 ・24時間シート・アセスメントで、明確になった情報を基にケアプランに反映させていきたい。

<p style="text-align: center;">環境衛生</p>	<p>目標</p> <p>①感染症の予防と対策について全職員が確実に対応出来る。</p> <p>②業務分担表をもとに居室内やリビングなどの居住スペース、廊下や玄関などの共有スペースの清掃を習慣づける事ができる。</p> <p>目標達成計画</p> <p>①－1,看護師を中心とした感染症の予防と対策についての勉強会(年間計画)の日程を決める。(4月中) ※食中毒、インフルエンザの研修会を年に2回実施する</p> <p>①－2,日程に基づいた勉強会の実施。</p> <p>②－1,チェック表をもとに清掃を行う。</p> <p>②－2,チェックが入った箇所は当日に、清掃する。</p> <p>②－3,実施状況を管理者・リーダーが確認する。必要に応じて、チェック表の変更や追加を行う。</p>	<p>取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症については年間研修計画の通り実施できた ・チェック表についてはコロナ禍において反対側の棟への行き来が制限されていた為、お互いにチェックが行えなかった。 ・コロナ発生時の対応についての動画は撮影し視聴してもらったが、その後の、感染症対策の訓練実施回数が少なかった
<p style="text-align: center;">防災対策</p>	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定避難訓練だけでなく、その他(風水害・防犯・自家発電の使用方法)の状況も加味した訓練も取り入れていく。(法人全体・事業所単独) <p>目標達成計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者・リーダー会議の中で、年間計画の作成(4月末) ・年間計画に基づいた、訓練を実施。 ・自家発電の使用方法について、フローチャートに沿って練習を行う(毎月の避難訓練時) ・地域消防団との避難訓練を実施(9月) <p>① ・BCPについては定期的(4月、12月)又、必要に応じて見直しと変更行っていく</p>	<p>取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自家発電の使用方法訓練について下半期は回数が少なかった。 ・コロナ禍において地域消防団との避難訓練は実施できていない ・BCPについては12月の見直し、余り出来なかった

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人材育成</p>	<p>目標</p> <p>① 異動してきた職員がスムーズに業務が取り組む事が出来る様に各利用者の情報と、業務分担表の内容を管理者・リーダーが説明する。</p> <p>②姿勢のルールを定着させる。</p> <p>目標達成計画</p> <p>① - 1,異動がある際には各棟で利用者の情報のまとめを管理者・リーダーが作成し提供する(随時)</p> <p>①- 2,各棟の業務分担表について、4月・10月に更新し、問題があればその都度変更する。</p> <p>毎日13時からのミーティング後、各棟に分かれ姿勢のルールの読み上げを確実に実施しチェック表には記載する。月末に管理者が点検し、検印する。</p>	<p>取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動あったが、利用者情報等のまとめができておらず、異動した職員への情報提供等が遅くなった ・業務分担表については10月の更新ができていない ・姿勢のルールの読み上げについては基本的には毎日行えたが、日によって実施できていない日があった
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域との交流</p>	<p>目標</p> <p>各利用者の出身地の行事と、その他にふるさとドライブを半年に1回は必ず実施する。又、天気の良い日や利用者希望時には、短時間でも気軽に外出出来るように支援する。</p> <p>目標達成計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域での行事について担当職員が情報収集を行う。(毎月) ・その情報を基に、計画し勤務表に記入していく ・計画を基に、各利用者の出身地の行事へ参加し、地域の方々との交流を深める。 <p>① ・天気の良い日や利用者の希望時にはその都度各棟で協力し、外出支援を行う</p>	<p>取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドライブについては、回数は少ないが実施出来ている。コロナ禍でもあり、人の少ない場所や車窓からのドライブを楽しんで頂いた ・天気等を考慮しながら、外底散歩実施した

施設管理	<p>目標</p> <p>定期的な、洗車・施設設備、備品のチェックを行い、しっかり管理できる。</p> <p>目標達成計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗車は2ヶ月に1度実施する。(4月から) ・備品の在庫や洗車の実施状況のチェック表を作成(4月末) ・施設設備、備品は月末に安全管理担当スタッフがチェックし、必要な物品があればその都度、稟議をあげる(毎月末) 	<p>取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗車はできているが、3ヶ月に1回位のペース ・備品等についての台帳できていない ・必要な物品等についてはその都度検討しながら、稟議をあげて購入了った

5. 入所者状況 (令和3年3月31日現在)

入居人数	18名 (男性/2名 女性/16名)		
要介護区分 (平均介護度: 2.1)			
要支援2 (0名)	要介護1 (6名)	要介護2 (6名)	
要介護3 (4名)	要介護4 (2名)	要介護5 (0名)	
年齢	平均 88.8歳 (最低/76歳) (最高/95歳)		

6. 運営推進会議の開催状況

以下の構成員にて6回(うち書面開催3回)の運営推進会議を開催し、活発な意見交換を行った。

委員	利用者家族	1名	西海市職員	1名
	地域住民の代表	3名		
	西海市社協職員	1名		
施設	理事長・統括施設長・管理者			4人

○実施状況

回	月日	場所	参加人数	主な協議テーマ
第1回	新型コロナウイルスの感染、漫延防止の為、書面での開催となった。後日、書面にて意見等の質問や意見も確認行った。			<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度運営目標 ・新型コロナウイルス方針 ・身体拘束等適正化委員会 ・運営状況報告
第2回	7月14日	第2グループホームふるさと	8名	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員の仕事、役割 ・新型コロナウイルス関連 ・身体拘束等適正化委員会 ・運営状況報告
第3回	新型コロナウイルスの感染、漫延防止の為、書面での開催となった。後日、書面にて意見等の質問や意見も確認行った。			<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練概要、実施報告 ・身体拘束等適正化委員会 ・運営状況報告
第4回	11月17日	第2グループホームふるさと	9名	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケート報告 ・運営状況報告 ・身体拘束等適正化委員会
第5回	新型コロナウイルスの感染、漫延防止の為、書面での開催となった。後日、書面にて意見等の質問や意見も確認行った。			<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価結果報告 ・運営状況報告 ・身体拘束等適正化委員会
第6回	3月9日	第2グループホームふるさと	9名	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度目標達成計画 ・運営状況報告 ・身体拘束等適正化委員会

7. 主な活動状況

年間を通した活動・行事			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶話会 ・ ふるさとドライブ（随時） ・ 防災訓練（避難訓練・夜間出動訓練）（毎月1回） ・ 誕生会 ・ 新型コロナウイルス対応訓練（計5回） 			
主な月別行事			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ お花見ドライブ ・ お花見ランチ ・ ぼた餅作り ・ 鈴カステラ作り 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ お月見 ・ 料理レク ・ 赤い羽根共同募金
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母の日茶話会 ・ こどもの日茶話会 ・ ちまき作り ・ クッキーづくり ・ 家庭菜園 ・ 焼きそばパーティー 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋まつり ・ 料理レク
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父の日茶話会 ・ 梅干作り ・ 饅頭作り ・ らっきょう漬け ・ 梅干し漬け 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリスマスコンサート(リモート) ・ ケーキ作り ・ クリスマス会 ・
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライブ ・ バラ風呂 ・ セブ茶話会 ・ 饅頭づくり 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新年祝賀会 ・ 鬼火焚き ・ かがみ開き ・
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 料理レク ・ かき氷レク ・ バラ風呂 ・ 家庭菜園 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節分・茶話会 ・ 料理レク ・ 園芸レク ・ バレンタインデー
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと敬老演芸会(リモート) ・ プレ敬老会（リモート） ・ おはぎ作り ・ 料理レク 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひな祭り茶話会 ・ ホワイトデー ・ 花見 ・ イチゴ大福作り ・ ぼたもち作り ・ 料理レク ・ 花見ドライブ

8. 会議・研修会開催状況

(1) 職員全体会議	12回
(2) ユニット会議	11回
(3) 管理者・リーダー会議	10回
(4) 広報委員会	3回
(5) 介護・医療勉強会・復命会	10回
(6) 防災訓練	11回
(7) コンサルティング研修	12回

9. 研修参加状況

【外部研修】

・認知症対応実践者研修	1名
・認知症対応型サービス事業管理者研修	1名
・衛生推進者養成講習	1名

法人外研修会 3回 参加総数 延べ3名 (2020年度延べ参加者 3名)

10. 外部評価

全職員、自己評価実施し、職員の一年間の活動状況や反省点を再認識する
令和2年11月20日 SEO財団、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、リモート
での受講となる。事前提出している、書類を基に管理者がヒヤリングを受ける。
受講後、結果内容(反省点やアドバイス含)全職員へ周知。又、目標達成計画を立案し
次年度に向けての取り組みを2月25日、西海市へ提出。

令和2年度事業報告「ふるさとシニアライフサポートセンター」

1. 事業概況

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるように、在宅生活を包括的に支える「小規模多機能型居宅介護事業所」を併設し、日常生活上のサービスを必要に応じて受ける事ができる「サービス付き高齢者向け住宅」では、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、法人内の事業所をはじめ医療機関や他業所との円滑な連携により、切れ目のないサービスを提供する事ができた。

利用状況は小規模多機能型居宅介護が新規契約者6名、終了者が8名。サービス付きマンションが新規契約者4名、終了者3名。稼働率平均は、小規模多機能型居宅介護94.3%（※登録定員29名だが人員配置により受入定員を19名に設定。平均17.9名）、サービス付きマンション91.6%（居室19部屋、平均16.9室）となった。

小規模多機能型居宅介護事業者に義務付けられている「運営推進会議」は6回実施し（新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から6回中4回は書面会議にて開催）、活動状況、事例紹介、研修実施報告等の意見交換を行った。

年に1回、事業所が自ら提供するサービスについて評価・点検を行い、運営推進会議において第三者の観点からサービスの評価を行う「サービス評価」を昨年同様実施し、西海市に受理された。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で「新しい生活様式」を余儀なくされ、事業所としても感染対策訓練やリモートでの会議・研修の参加、ホームページでの情報発信に努めた。

2. 利用状況

【小規模多機能型居宅介護】

	本年度	前年度
契約者（延べ）	21人	25人
契約終了者	3名	8人

【サービス付き付きシニアマンション】

	本年度	前年度
契約者（延べ）	21人	23人
契約終了者	3人	4人

3. 利用者状況（令和3年3月31日現在）

【小規模多機能型居宅介護】

利用者数	18名（男性／3名 女性／15）		
要介護区分	（平均介護度：1.9）		
要支援1（0名）	要支援2（0名）	要介護1（9名）	
要介護2（2名）	要介護3（6名）	要介護4（1名）	

年 齢	平均 88.4 歳	(最低/82 歳)	(最高/93 歳)
【サービス付きシニアマンション】			
入居者数	18 名	(男性/3 名)	女性/15)
要介護区分	(平均介護度：1.9)		
要支援 1 (0 名)	要支援 2 (0 名)	要介護 1 (9 名)	
要介護 2 (2 名)	要介護 3 (6 名)	要介護 4 (1 名)	
年 齢	平均 88.4 歳	(最低/82 歳)	(最高/93 歳)

4. 分野別重点計画振り返り

	令和 2 年度；目標と目標達成計画	令和 2 年度；取り組み状況と課題
自立支援介護	<p>《目標》 自立支援介護についての理解・必要性を定期的にご利用者へ伝えていく。</p> <p>《目標達成計画》 脳トレと合わせて「自立支援」の勉強・講習会を開催する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講習会プログラムの作成 (4 月中) 2. 講習会プログラムの実施 (5 月より 2 か月に 1 回) 3. 9 月よりケアプラン更新時に随時活用 	<p>【取り組み状況】 講習会プログラムの実施とケアプランへの反映も随時実施できており、管理者・介護支援専門員間で定着。 ご利用者の中には口腔ケアは自分でできていると言う思いが強く、介入を拒否される方が多く、下半期はご利用者へ口腔ケアの重要性の周知徹底と職員の上手な介入を新たな目標として設定した。</p> <p>【課題】 自立支援介護の意義や必要性をご利用者自身にも伝えていく機会を増やす。</p>
不適切ケア対策	<p>《目標》 身体拘束等適正化委員会の中での活発な意見交換。</p> <p>《目標達成計画》 身体拘束等適正化委員会での協議事項があれば、必ず再発防止に向けた対策とモニタリングを実施し評価していく。</p>	<p>【取り組み状況】 身体拘束等適正化委員会の中では管理者を中心に、事例があった場合は再発防止に向けた対策をとることができており、下半期の目標を「利用者の声」をもっと積極的にあげていくことと新たに設定し実施できていた。</p> <p>【課題】 「利用者の声」も一部の職員に偏っており、全職員が拾い上げていきたい。</p>

ケアマネジメント	<p>《目標》</p> <p>「自立支援介護」をプランにしっかりと反映させていく。</p> <p>《目標達成計画》</p> <p>長期間担当している利用者に対しても、しっかりとアセスメントし、新たな情報やエピソードをケアプランに落とししていく。</p>	<p>【取り組み状況】</p> <p>担当者によるアセスメントやモニタリングは概ねできているが、コロナ禍でご家族との面談の機会が減っており、新たな情報が積極的に収集できていない。</p> <p>【課題】</p> <p>様々な形でご家族に働きかけ、情報を共有していきたい。</p>
環境衛生	<p>《目標》</p> <p>居室の環境衛生面で気になる事があれば、ご家族・本人の同意を得て改善する。</p> <p>《目標達成計画》</p> <p>居室の環境衛生面で気になる事があれば、管理者へ報告し改善の必要性を検討する。必要がある場合にはご家族・本人と協議し了承を得て改善する。</p>	<p>【取り組み状況】</p> <p>担当者を中心にチェック表を作成し、居室・施設内の環境美化に努め、中庭や外庭のガーデニングもご利用者と一緒に実施できており、ご利用者も喜ばれている。また、ご利用者のADLの変化に応じた居室のレイアウト変更や環境整備も実施できていた。下半期はウイルス対策の空間づくりを目標とし、感染対策のゾーニング訓練も定期的に実施できた。</p> <p>【課題】</p> <p>コロナ禍の状況で、新たな情報や感染対策を取り入れながら、BCPの変更も柔軟に行っていく必要がある。</p>
防災対策	<p>《目標》</p> <p>多岐にわたる防災訓練の実施と検証</p> <p>《目標達成計画》</p> <p>防火管理者を中心に防災訓練の実施要項・手法を検討し、訓練実施のたびに振り返り検証していく。</p> <p>1. 様式の見直し⇒令和2年3月中</p> <p>2. 計画的な防災訓練計画作成。訓練は毎月1回実施することとし、防犯訓練、防災訓練（法人全体、事業所単独）、避難訓練（夜間想定）を計画に盛り込む</p>	<p>【取り組み状況】</p> <p>担当者を中心に計画的に訓練を実施し、訓練の度に振り返りや改善点を検証し、次回の訓練へと反映できていた。</p> <p>【課題】</p> <p>実際の停電時に出てきた課題等もあり、速やかに新たな方策を検討等、引き続き反復した訓練の必要性を感じた。</p>

<p>人材育成</p>	<p>《目標》 新任職員、異動職員へ対する職員研修マニュアルの作成。 《目標達成計画》 管理者・研修担当者を中心に新任職員研修計画・マニュアルを作成する。 ⇒作成時期については法人本部の進捗状況とあわせながら、遅くとも9月までには作成する。</p>	<p>【取り組み状況】 法人としての取組が下半期に実施されるとの事で、事業所内での研修のありかたを担当者で検討していくことに目標を変更し、新任研修のマニュアルを作成することができた。 【課題】 今後は動画研修も取り入れて実施予定。</p>
<p>地域との交流</p>	<p>《目標》 地域の情報を収集し計画的に参加する。 《目標達成計画》 運営推進会議を活用し、地域行事の情報収集に努める。人員配置等を配慮し計画的に参加できるようにする。 1. 運営推進会議のレジュメの中に「地域情報」を入れ込み、確実に情報収集できるように工夫する。 2. いただいた情報で参加可能な活動は随時活動計画に盛り込んでいく。</p>	<p>【取り組み状況】 コロナ禍で運営推進会議も書面開催となっており地域との交流も難しい状況で、下半期は地域の事業所や各種団体に、ふるさと便りやパンフレット等を持参し情報の交流をはかる目標を変更し、毎月計画的に実施できた。 【課題】 コロナの影響が大きく、新たな手法や取組検討が必要。</p>
<p>施設管理</p>	<p>《目標》 老朽化に伴う不具合への早期対応 《目標達成計画》 施設設備の点検やメンテナンスを計画的に実施していく。</p>	<p>【取り組み状況】 担当者を中心に実施できている。 【課題】 施設の老朽化もあり引き続き継続していく。</p>
<p>口腔ケア</p>	<p>《目標》 介護職全員が口腔ケア・リハビリを実施できるようになる。 《目標達成計画》 法人の誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトの方針に基づいた研修参加、技術の習得。</p>	<p>【取り組み状況】 ご利用者に対してセミナーの開催や個別指導もしているが、個々の理解力のバラつき・固定観念があり円滑な導入とはなっていない。 【課題】 口腔ケアの効果や習慣化に向けて、ご利用者の理解を深め、更にしっかりと取り組んでいく。職員もさらなる技術向上・習得に努めていく</p>

5. 運営推進会議の開催状況

以下の構成員にて6回の運営推進会議を開催し、活発な意見交換を行った。

委員	利用者家族	1名	西海市職員	1名
	地域住民の代表	3名	西海市社協	1名
事業所	理事長 サポートセンター長 グループホーム管理者 小規模多機能ホーム管理者 介護支援専門員			5名

○実施状況

回	月日	場所	参加数	主な協議テーマ
第1回	5月13日	書面開催	10名	<ul style="list-style-type: none"> サービス評価結果報告 新型コロナウイルス感染症の対応方針について 運営状況報告 書面会議の意見、情報提供
第2回	7月15日	本センター	10名	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策BCP及び地域状況について 運営状況報告 意見交換
第3回	9月15日	書面開催	10名	<ul style="list-style-type: none"> 事例報告 令和2年度研修計画と実施状況報告 運営状況報告 書面会議の意見、情報提供
第4回	11月18日	本センター	11名	<ul style="list-style-type: none"> ご利用者ご家族アンケート結果報告 運営状況報告 サービス評価について 意見交換
第5回	令和3年1月13日	書面開催	10名	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度サービス評価について 運営状況報告 書面会議の意見、情報提供
第6回	2月17日	書面開催	10	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度サービス評価結果報告 運営状況報告 書面会議の意見、情報提供

6. 主な活動状況

年間を通した活動・行事			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練（避難訓練・夜間出動訓練）（毎月1回） ・ 脳トレーニング（毎月1回） ・ 誕生会（誕生月） 			
主な月別行事（上記月例行事を除く）			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花見ドライブ（伊佐の浦公園） ・ おやつ作り（ふつ餅） ・ 全体レクリエーション ・ 茶話会 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぜんざい会 ・ 餃子パーティー ・ おやつ作り ・ 全体レクリエーション
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶話会 ・ おやつ作り（ちまき・クレープ） ・ たこ焼きパーティー ・ 全体レクリエーション 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体レクリエーション ・ 焼きそばパーティー ・ もみじ祭り ・ おやつ作り（いきなり団子）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライブ（大島大橋） ・ 西海市文化祭 ・ おやつ作り（鈴カステラ・饅頭） ・ 全体レクリエーション 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリスマスコンサート（リモート） ・ 餅つき ・ 干し柿作り ・ クリスマスケーキ作り ・ おやつ作り（おはぎ） ・ 全体レクリエーション
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライブ（西海橋） ・ スイカ重量当て大会 ・ おやつ作り（クッキー） ・ お好み焼きパーティー 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新年祝賀会 ・ 鏡開き（ぜんざい） ・ 全体レクリエーション
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ かき氷会 ・ おやつ作り（ぼた餅） ・ 全体レクリエーション 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節分豆まき ・ 雛段飾り ・ 全体レクリエーション
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ パフェパーティー ・ 敬老会 ・ サンドイッチパーティー ・ 全体レクリエーション 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひな祭り茶話会 ・ お花見ドライブ（西海橋/伊佐の浦公園・四本堂公園）

7. 会議・委員会開催状況

①職員全体会議	(12回)
②給食委員会	(12回)
③防災委員会	(12回)
④レク委員会	(6回)
⑤美化・環境委員会	(6回)
⑥事故防止委員会	(9回)
⑦医療・虐待検討委員会	(7回)
⑧防災訓練	(12回)
⑨事業所連絡会議	(12回)

8. 研修参加状況（職場内研修）

実施月	内容	参加数
4月	・介護保険制度について	14
	・高齢者の住まいについて	14
	・感染症対策（新型コロナ）	14
	・身体拘束、虐待について	12
5月	・感染症対策（新型コロナ感染症BCP）	14
	・自立支援（フレイル）	14
6月	・看取りケア	14
	・認知症ケア	14
	・感染症対策（食中毒）	14
7月	・高齢者の疾患	7
	・新型コロナ感染症	14
8月	・新型コロナ感染症	14
	・高齢者の権利擁護	10
9月	・新型コロナ感染症	14
10月	・新型コロナ感染症	14
	・サービス評価について	8
11月	・新型コロナ感染症	13
	・サービス評価について	13
	・医療連携（入院者の対応について）	13
	・事故防止と検証	8
12月	・新型コロナ感染症	13
	・サービス評価について	13
	・認知症ケアのアプローチ	14

9. 令和2年度サービス評価

小規模多機能型居宅介護事業所においては、従来の外部評価機関による外部評価の代わりに、年に1回、事業所が自ら提供するサービスについて評価・点検を行い、その評価結果について、地域の有識者の皆さんが構成員である運営推進会議において第三者の観点からサービスの評価を行う事が義務付けられました。

・サービス評価結果

令和3年2月9日西海市長寿介護課受理にて確定。

小規模多機能ホームふるさとのホームページにて閲覧可

(<http://furusato-saikai.jp/syokibo.html>)

以上

令和2年度事業報告「ふるさとレスキュー事業」

1. 事業概況

長崎県内の複数の社会福祉法人による社会貢献事業「生計困難者レスキュー事業」に参加し、生活困窮者に対する相談支援事業を実施した。

○レスキュー基金への拠出金：85,000円

県経営協役員としての活動

R2.3.2 「生計困難者レスキュー事業 全体会議（オンライン）」（県経営協）

① 西彼・西海ブロックにおける活動

R2.12.2 「生計困難者レスキュー事業 西海地区ブロック会議」を開催。市内8法人の担当者出席のもと、活動報告や幹事法人の持ち回り等について検討を行った。

行政や社協からの相談受付4件で、CSW設置法人として相談受付または、関係機関と直接連携した事例は3件、うち1件は手当支給までの食料や日用品代をレスキューで直接対応した。（現物給付額は44,550円）

その他1件は他法人へレスキュー事業対応依頼の引継ぎを行った。

② 県経営協「レスキュー事業」実績（R2.4.1~R3.3.31）

～県内複数法人による公益的取り組みとして

○参加法人数：103法人

○レスキュー基金総額：12,278,078円

○支援実績（現物給付額）：3,377,783円（1件当たり平均支援額：17,967円）

○支援状況

・年間相談受付数…190件

2. 相談支援状況

(1) 直接対応した案件 3件

受付	相談者	事案タイトル	相談概要	対応及び支援内容 [支援額]
10/21	西海市社協	給与支給までのガソリン代	43歳男性。ハローワークを通じて終了活動を行い、市内の福祉施設へ就職した。当月は勤務日数少なく、手取りが数万円のため、次回給料日までの通勤のためのガソリン代をレスキューで支援できないかと相談あり。相談受け付けるも、5日後に社協担当者より連絡あり。長崎市に住む家族より現金の支援があり、相談のみ受け付ける。	関係機関との連携
10/30	西海市福祉課	生活保護受給までの食料支援	53歳男性。病気で長く就労ができず、貯金で生活していたが、病院代も支払うことが難しくなり。身内も希薄な関係で支援は難しい。食料については近所の方から支援もあり、何とか食べていけているが、生活保護受給までの食料支援で受付けたが、経済的支援は行わず生活保護受給への橋渡しが可能となった。	関係機関との連携で終結。
3/5	西海市子ども課	給与支給までの食料、日用品の支援	33代男性。昨年からの新型コロナの影響で3人の子どもの面倒を見るために仕事を休まざるを得ない状況が続き、解雇となる。長男が生まれながらの難聴にて特別児童手当や児童手当の収入はあるも生活日に当て、残金が少ない。本人は働く意欲もあり、3/22より就職決まるが給料は先となるため、次回の特別児童扶養手当までの食料と日用品の支援をレスキューで支援。	食料、日用品の支援 【44,550円】

(2) 幹事法人として他法人に紹介した案件 1件

受付	相談者	事案タイトル	紹介先
3/3	西海市社協	年金支給までの食費、日用品の支援	西海市手をつなぐ育成会